映画
クレヨンしんちゃん
嵐を呼ぶ
モーレツ!
オトナ帝国の逆襲
東宝
阪急東宝グループ

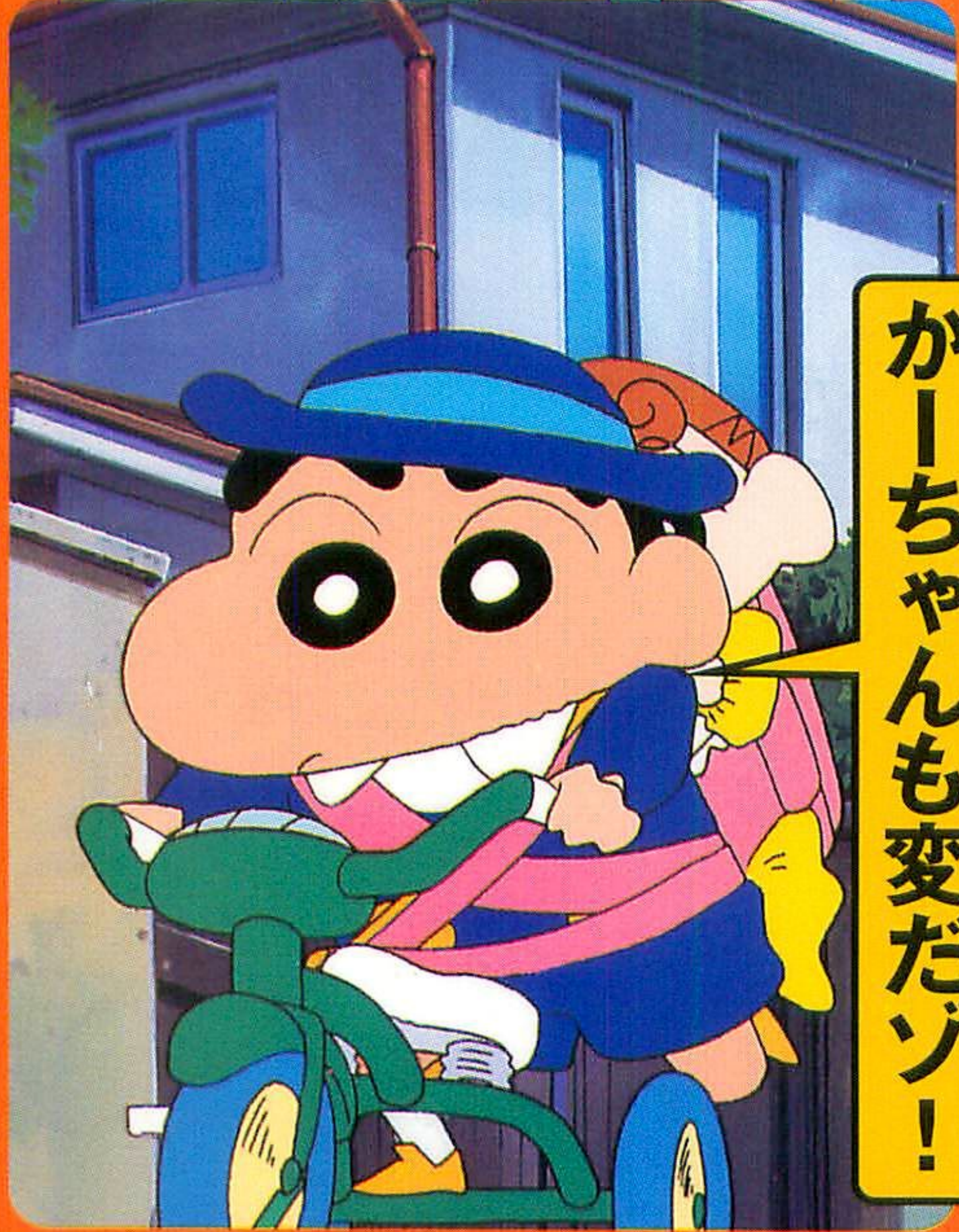
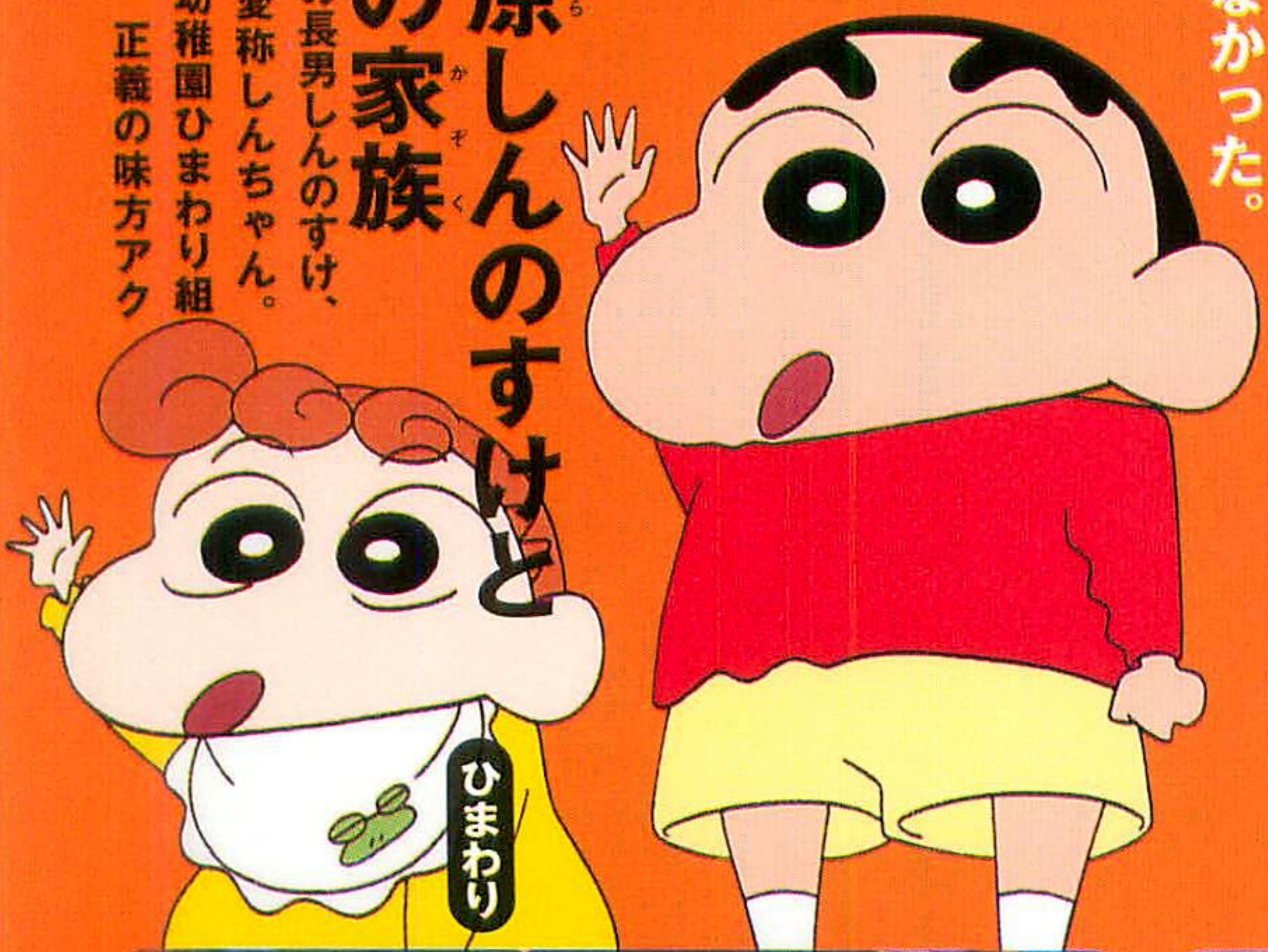
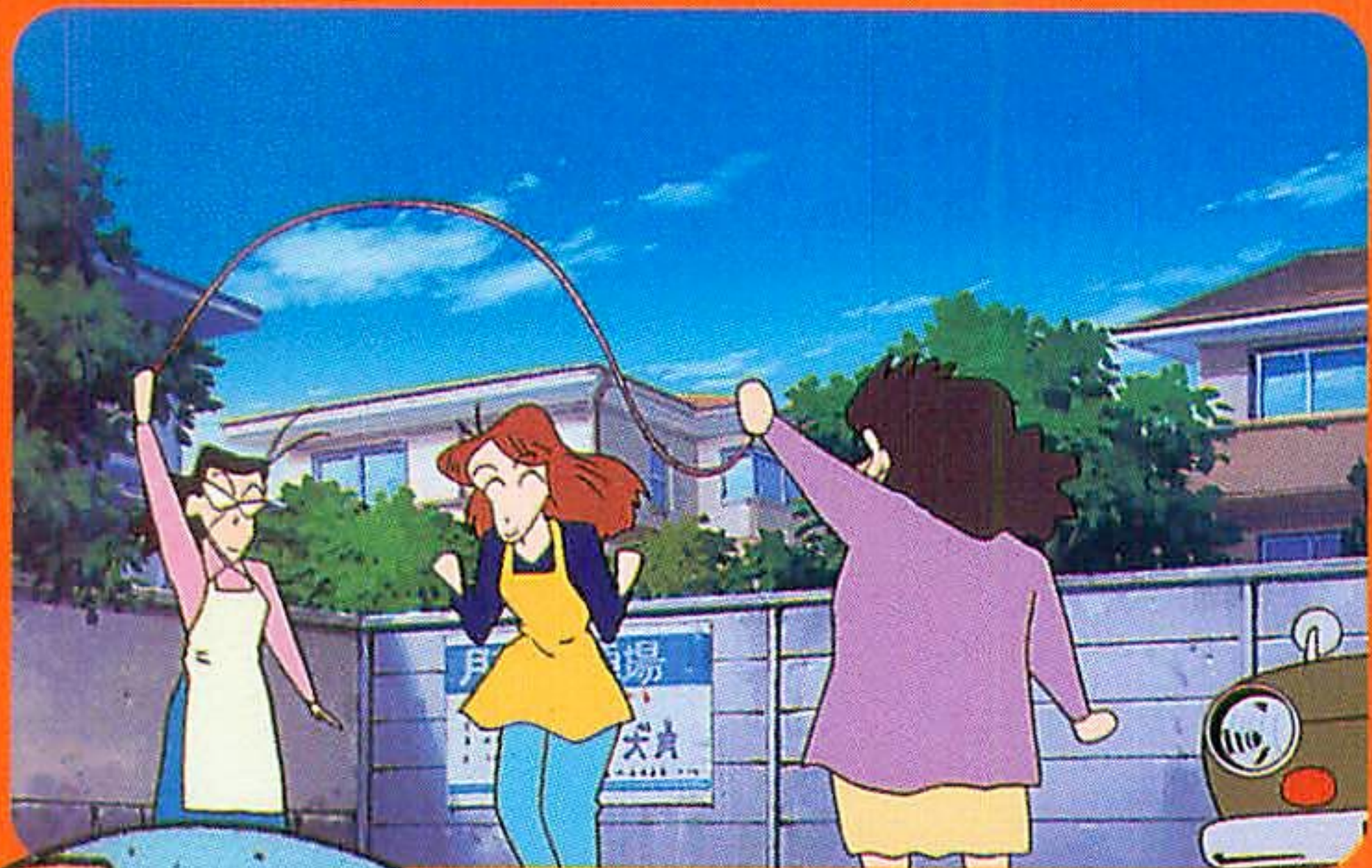
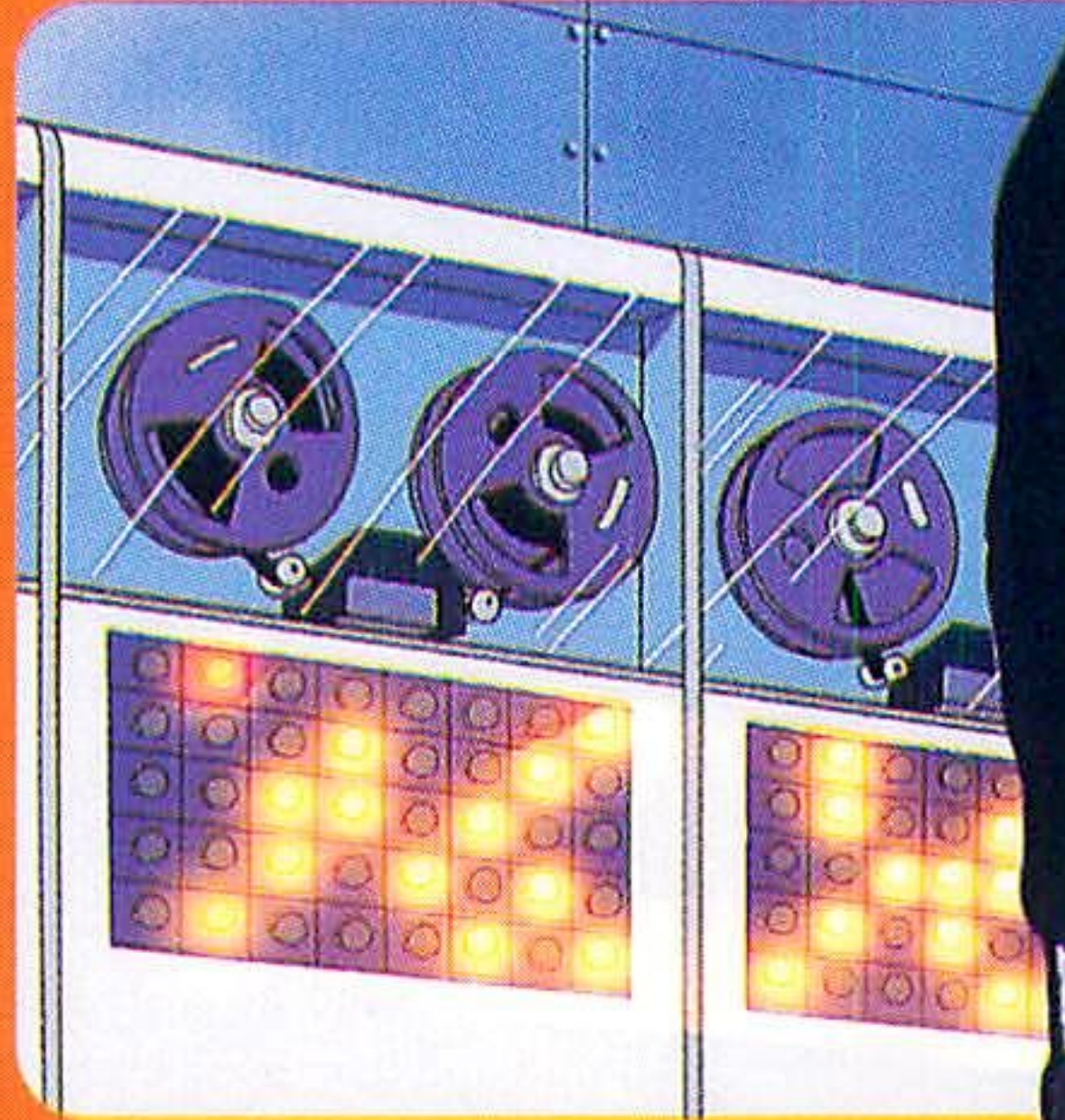
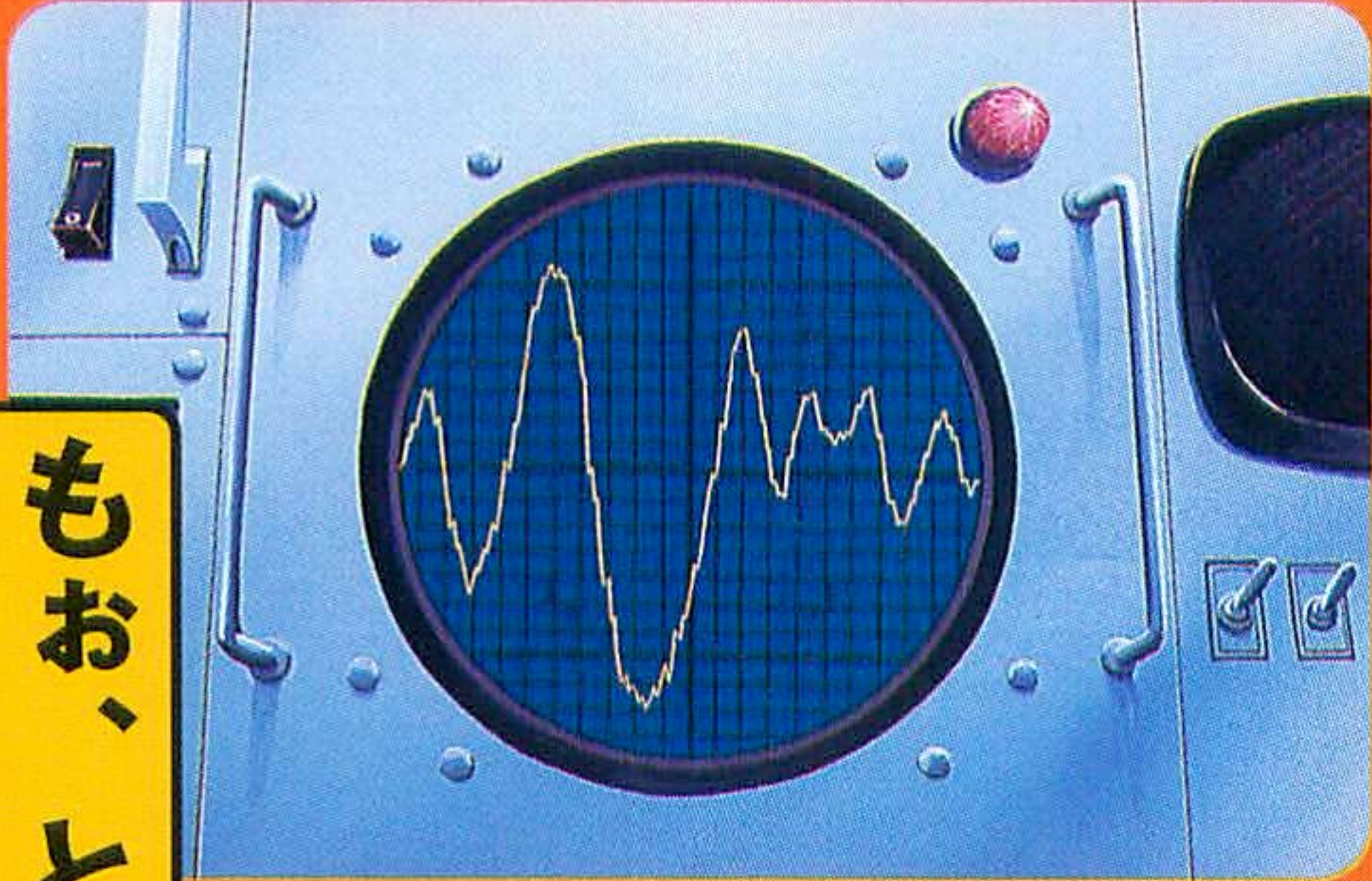
万博は俺が守る!
オトナ帝国
クレヨンしんちゃん
モーレツ!
オトナ帝国の逆襲

とーちゃんばっかりズルい!
オラにもやらせろー!!
ひろしSUNが来てくれたわ!
映画 クレヨンしんちゃん
嵐を呼ぶ
モーレツ!オトナ帝国の逆襲
原作：臼井儀人（らくだ社）
「月刊まんがタウン」（双葉社）連載中／テレビ放映中
監督・脚本：原　恵一
製作：シンエイ動画／ASATSU-DK／テレビ朝日　配給：東宝
© 臼井儀人／双葉社・シンエイ・テレビ朝日　2001

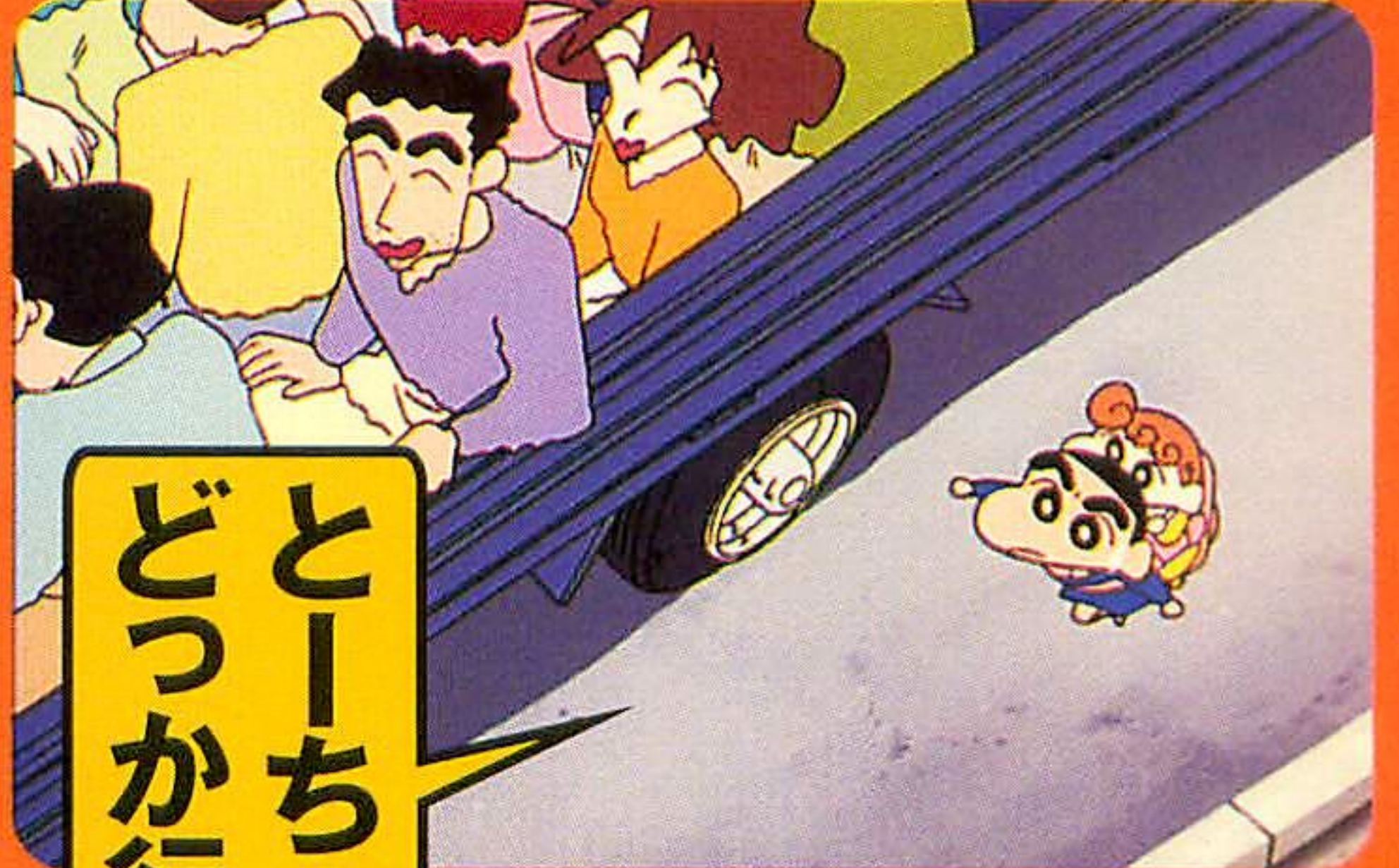
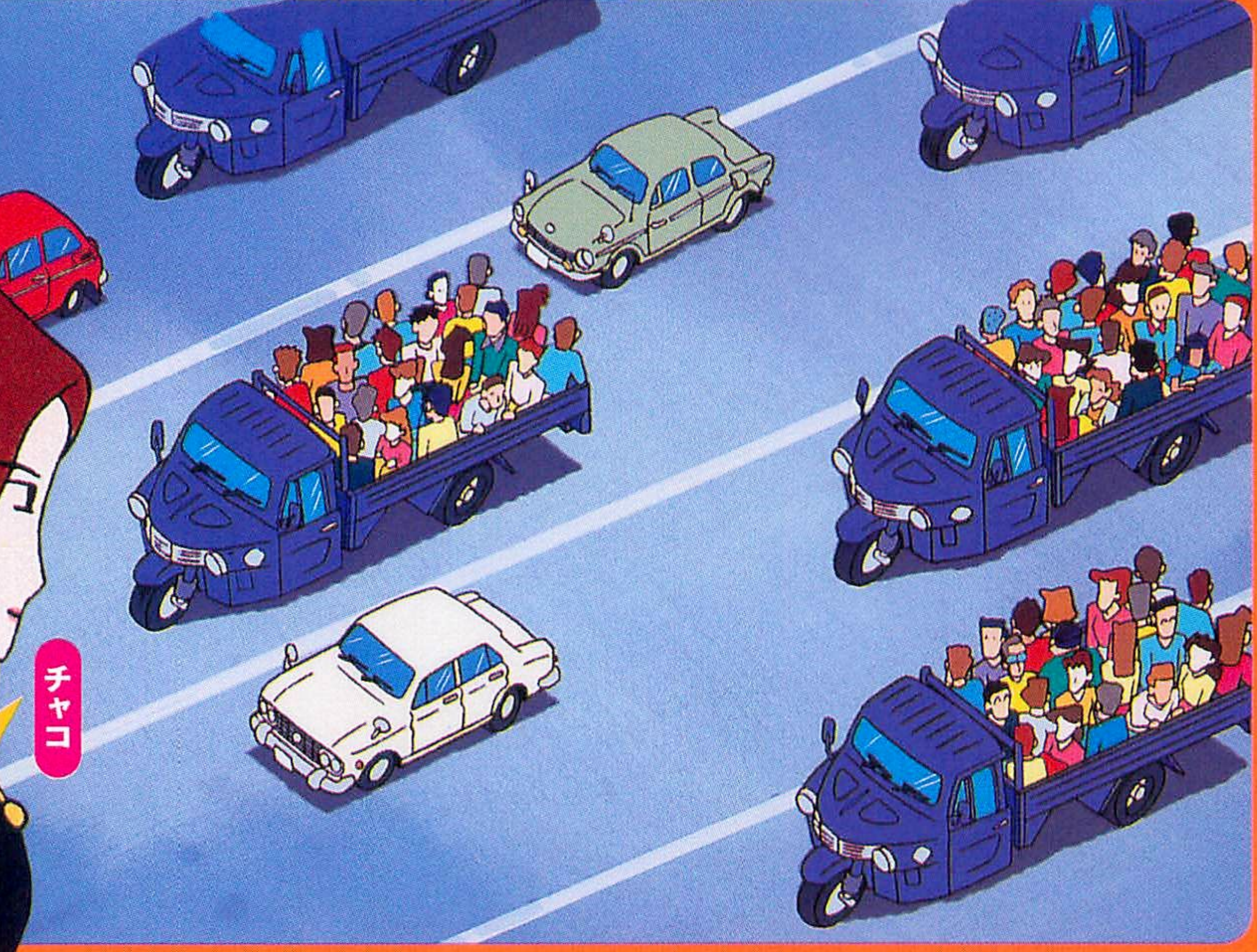
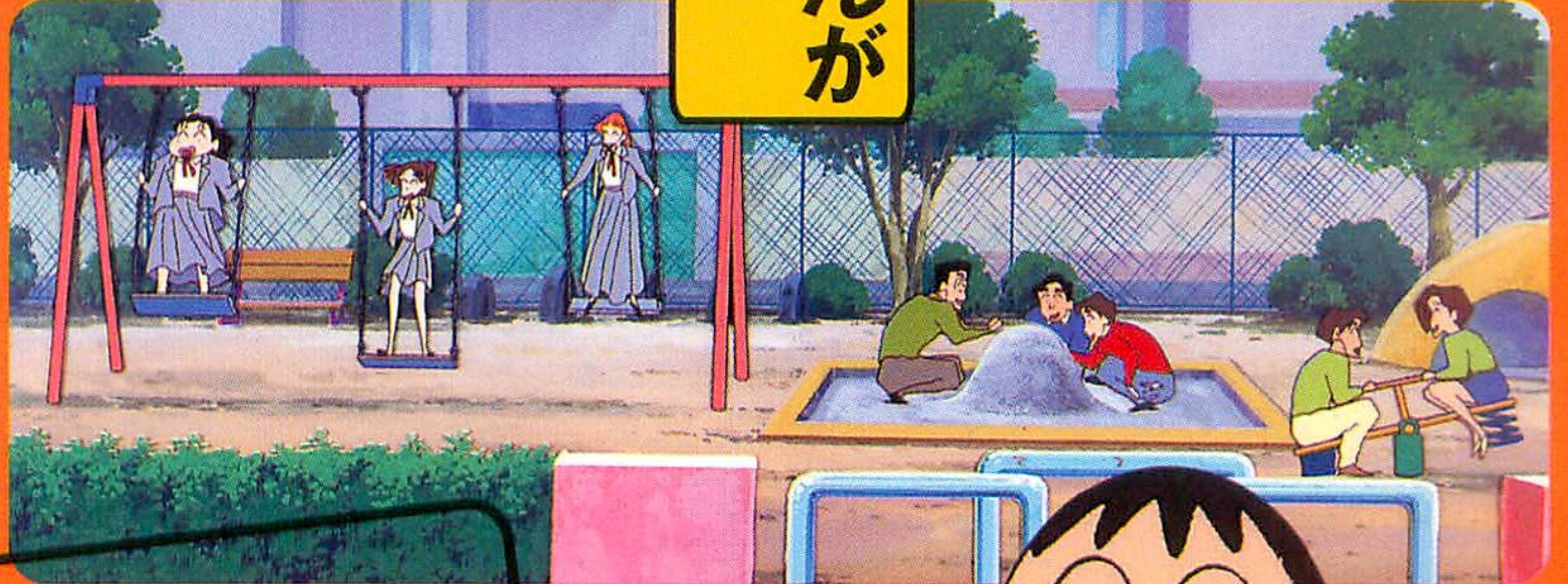
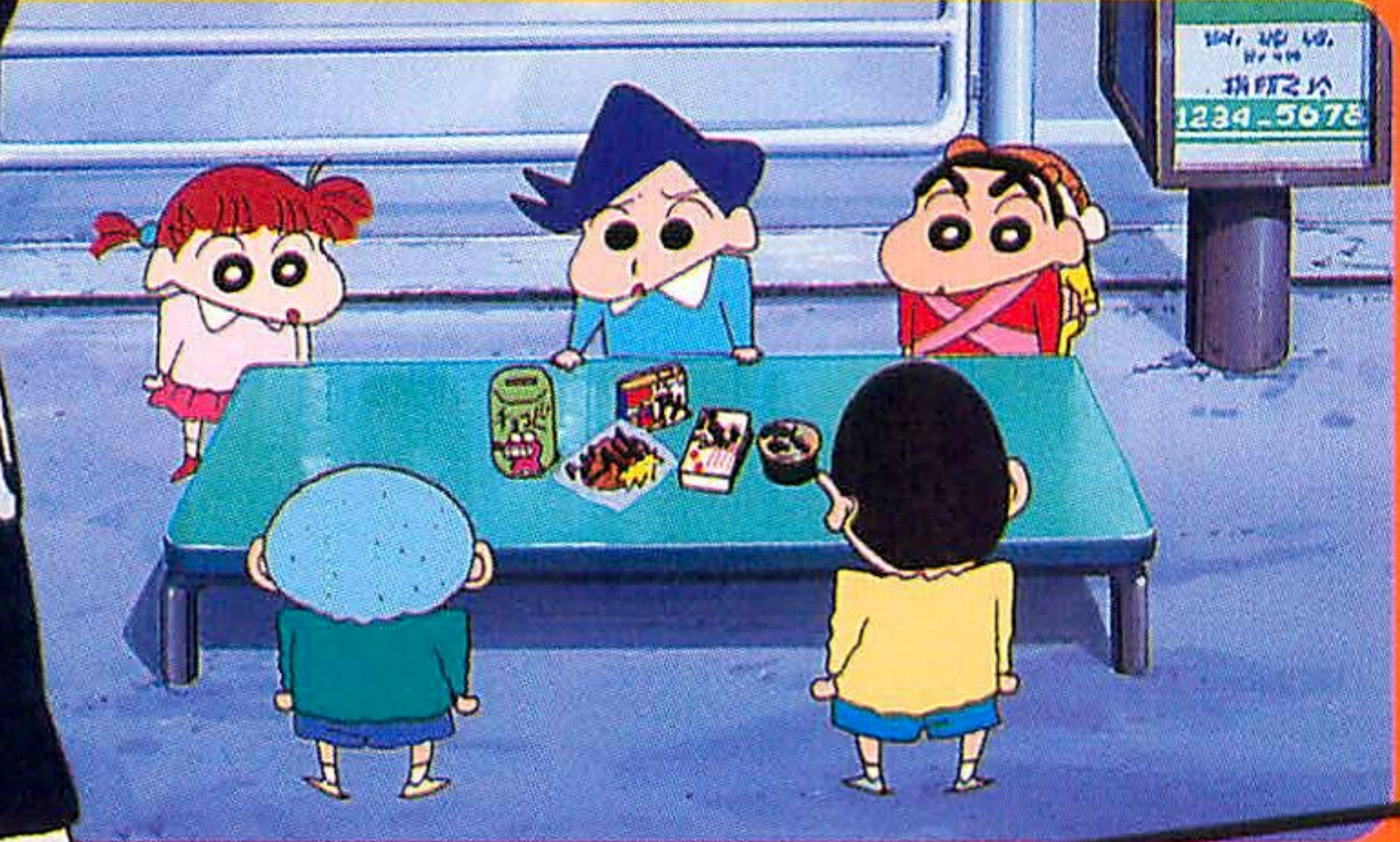
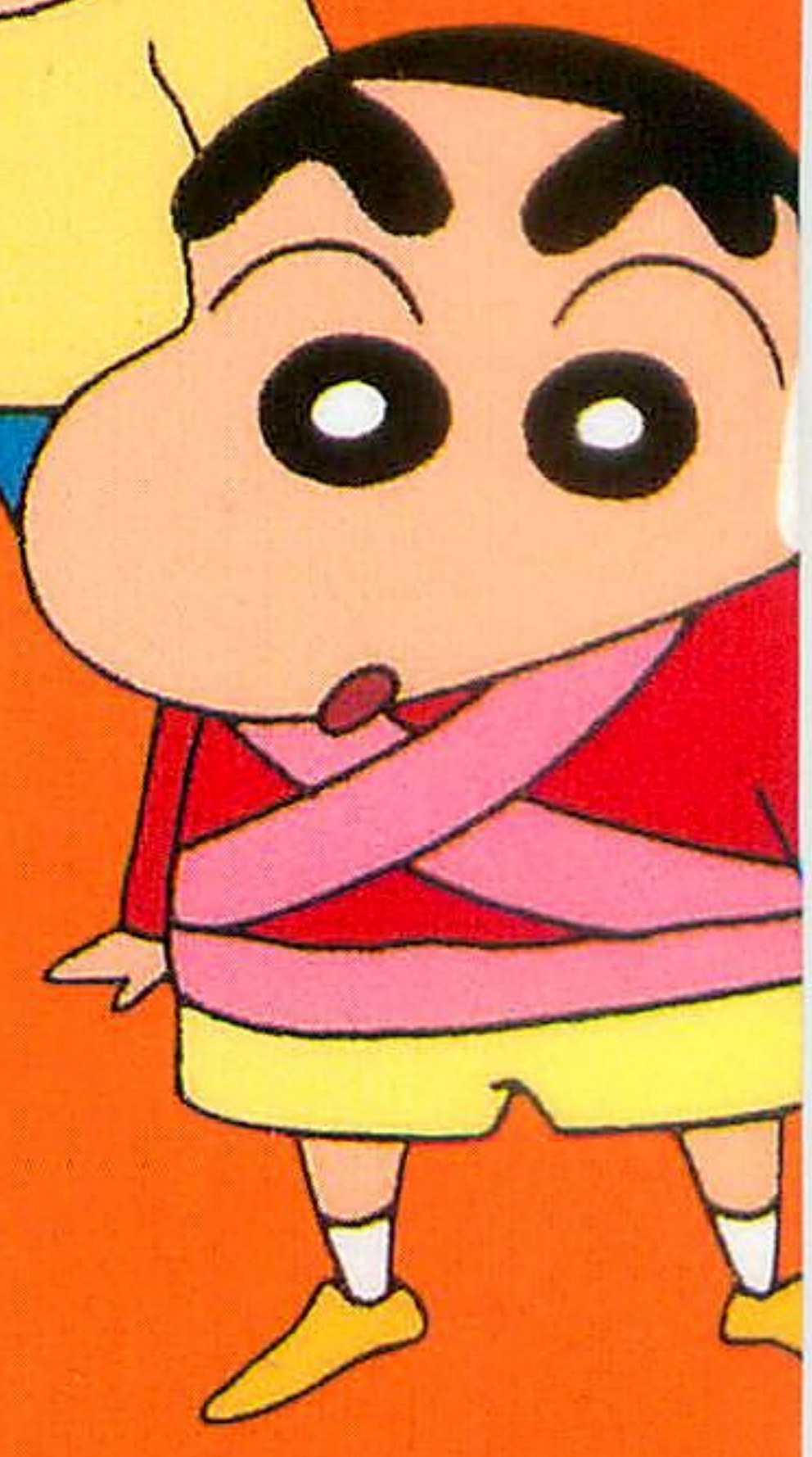
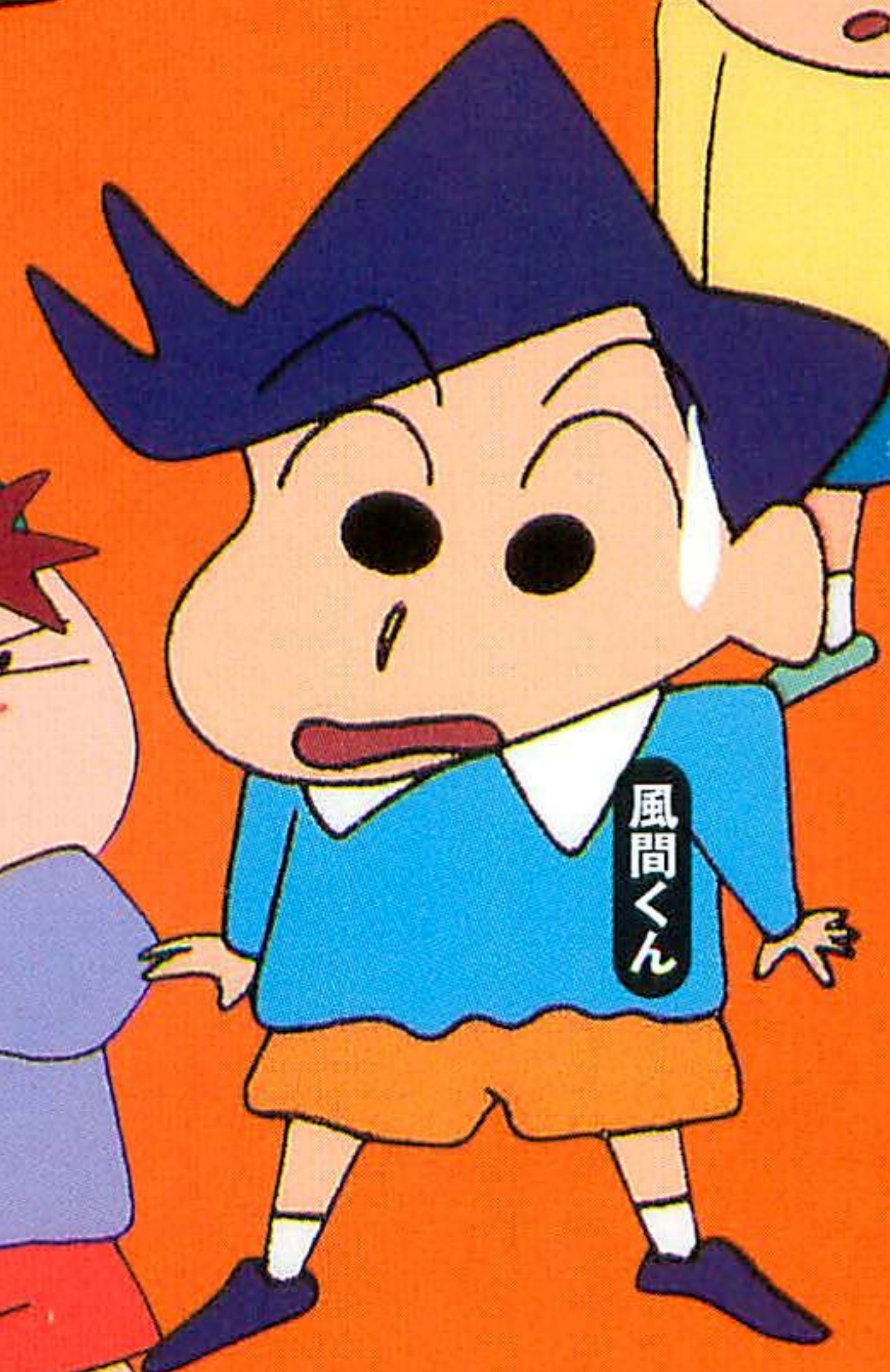
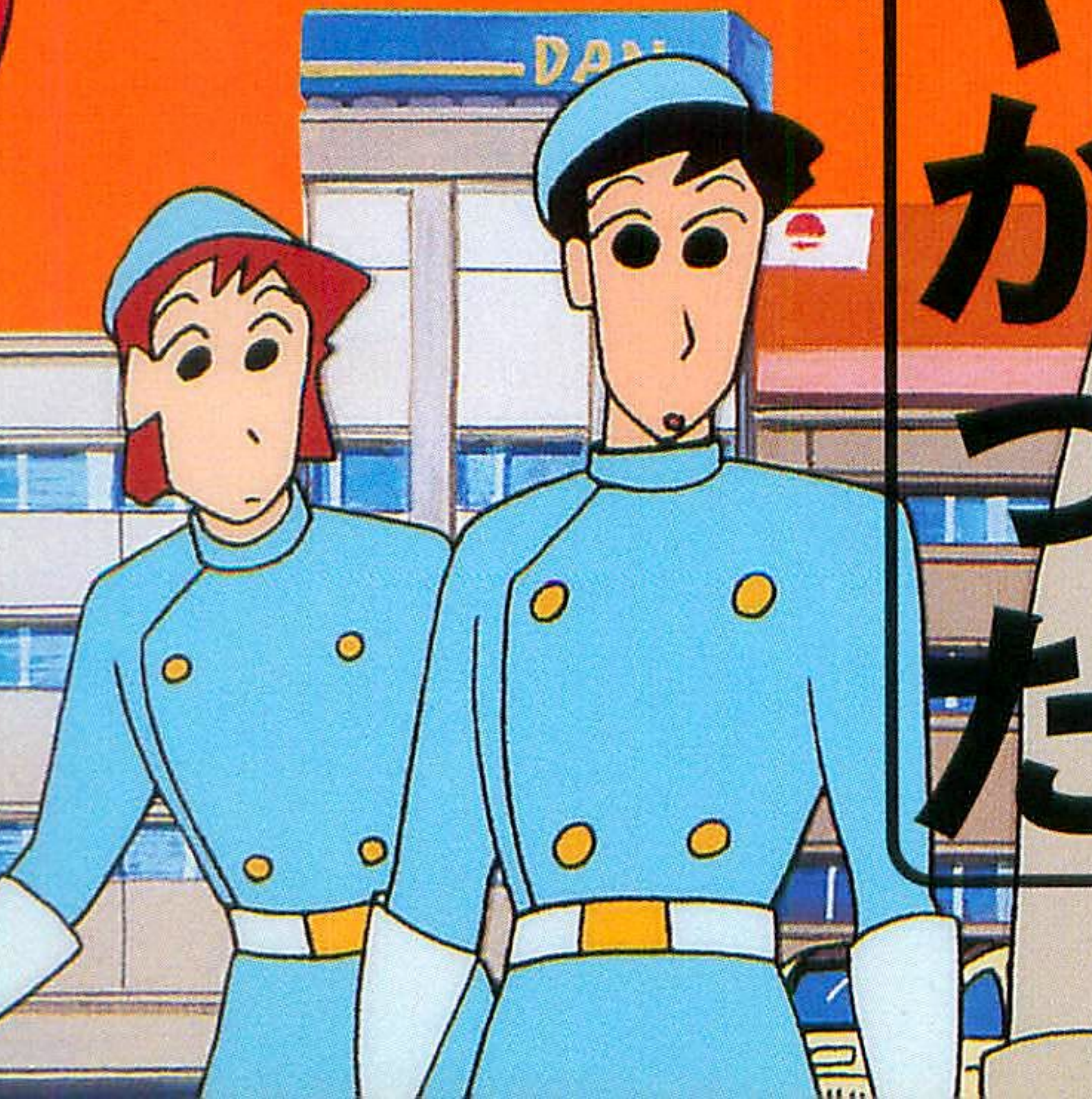
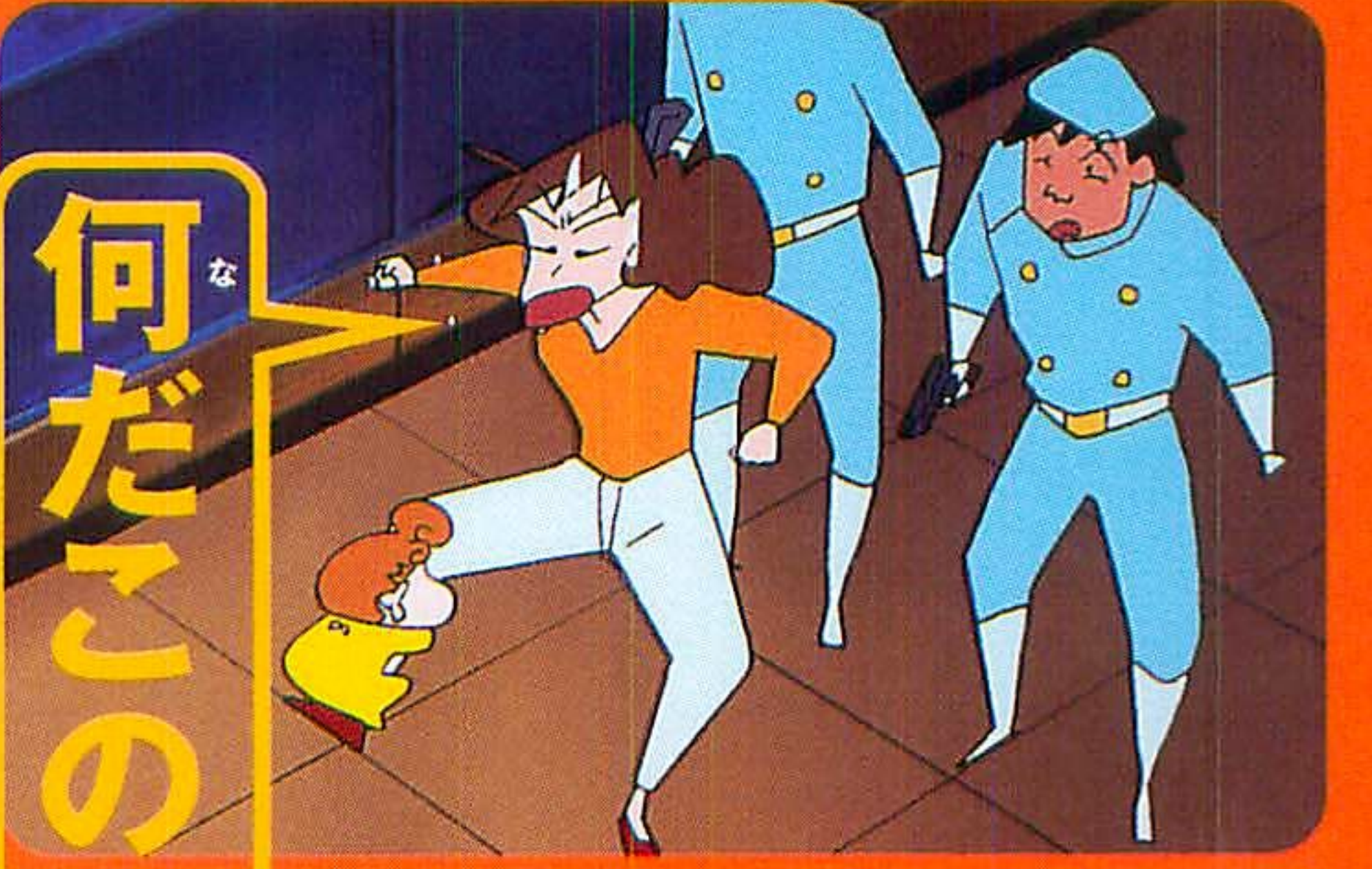
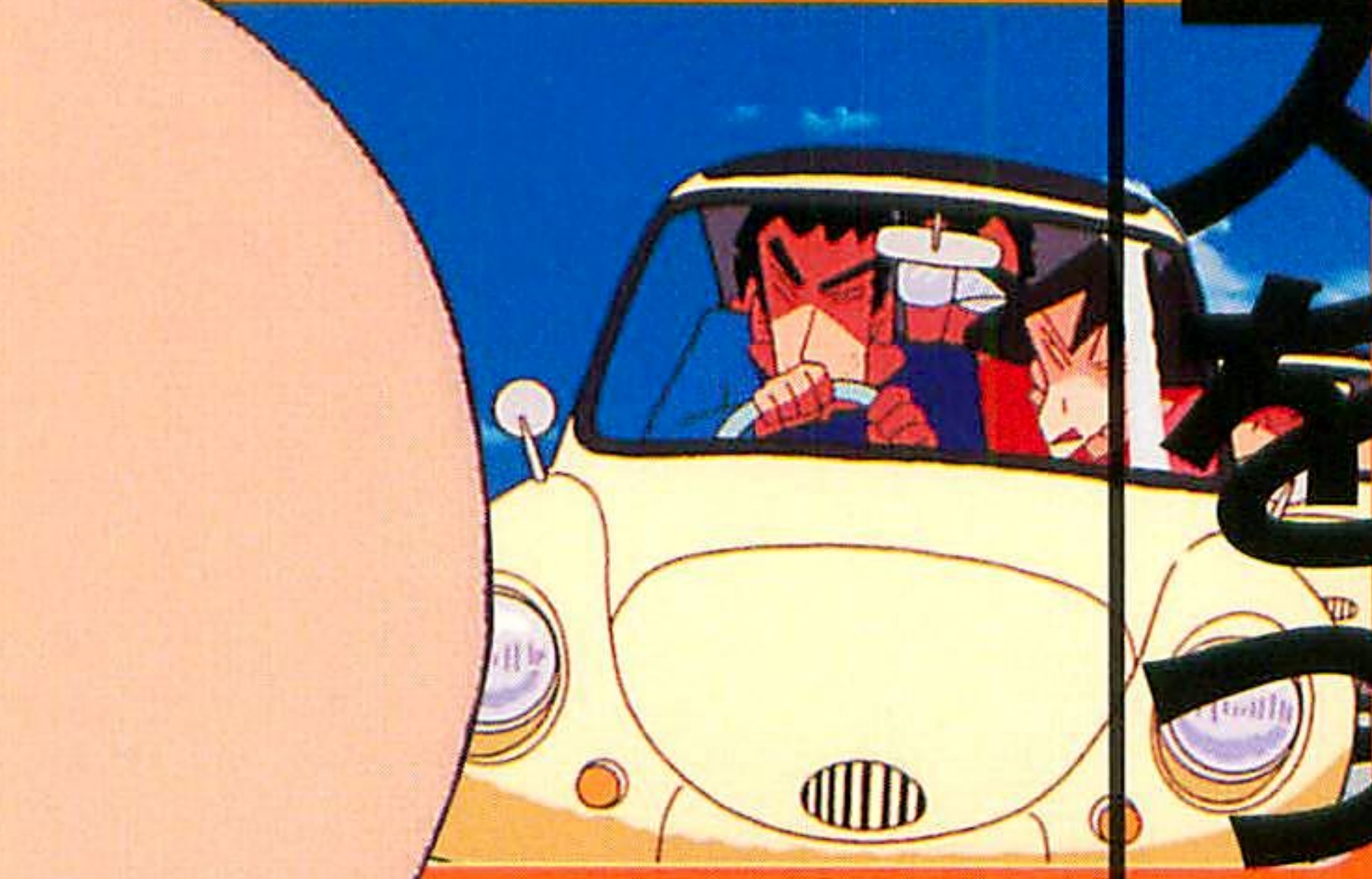
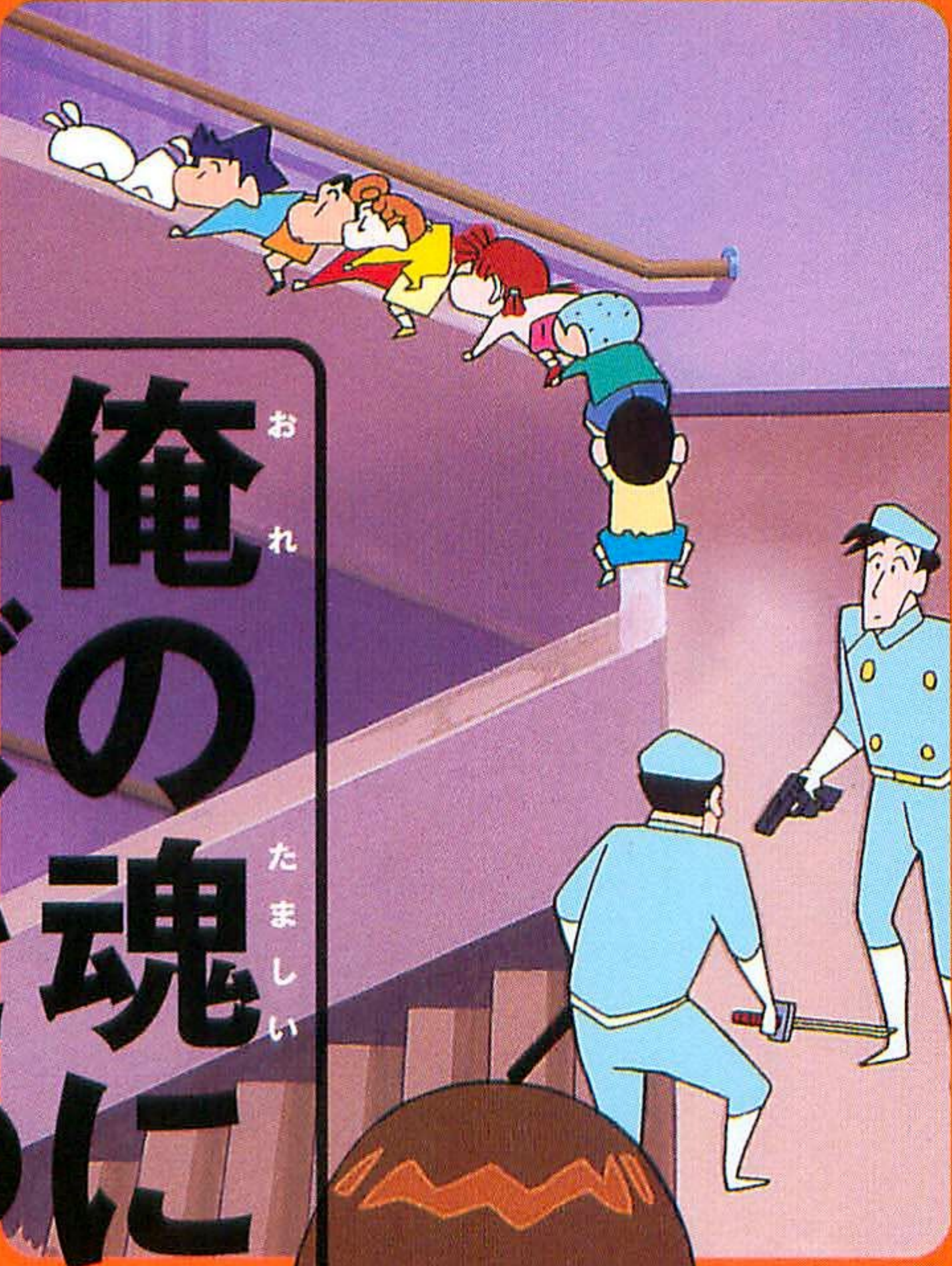
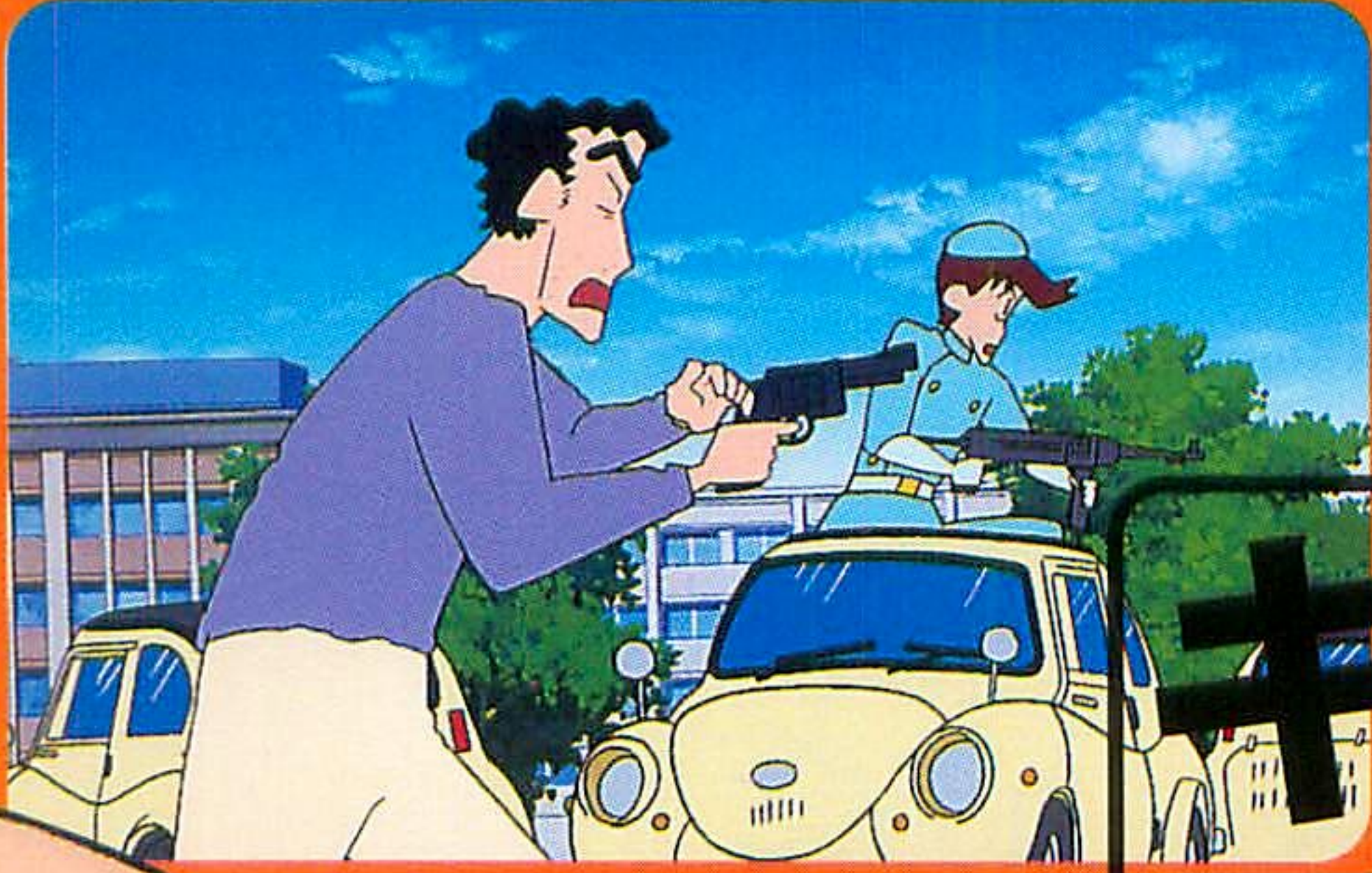
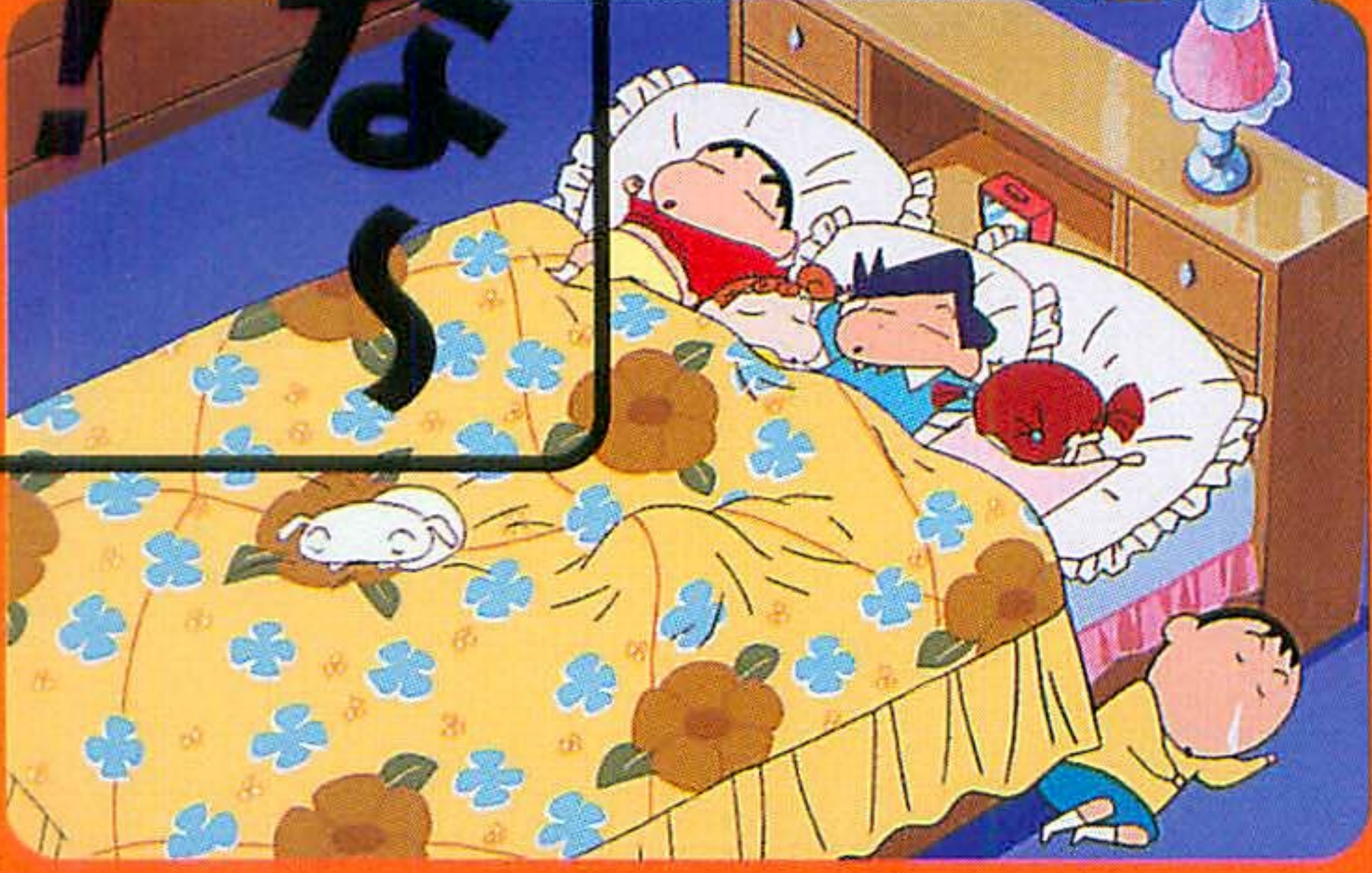
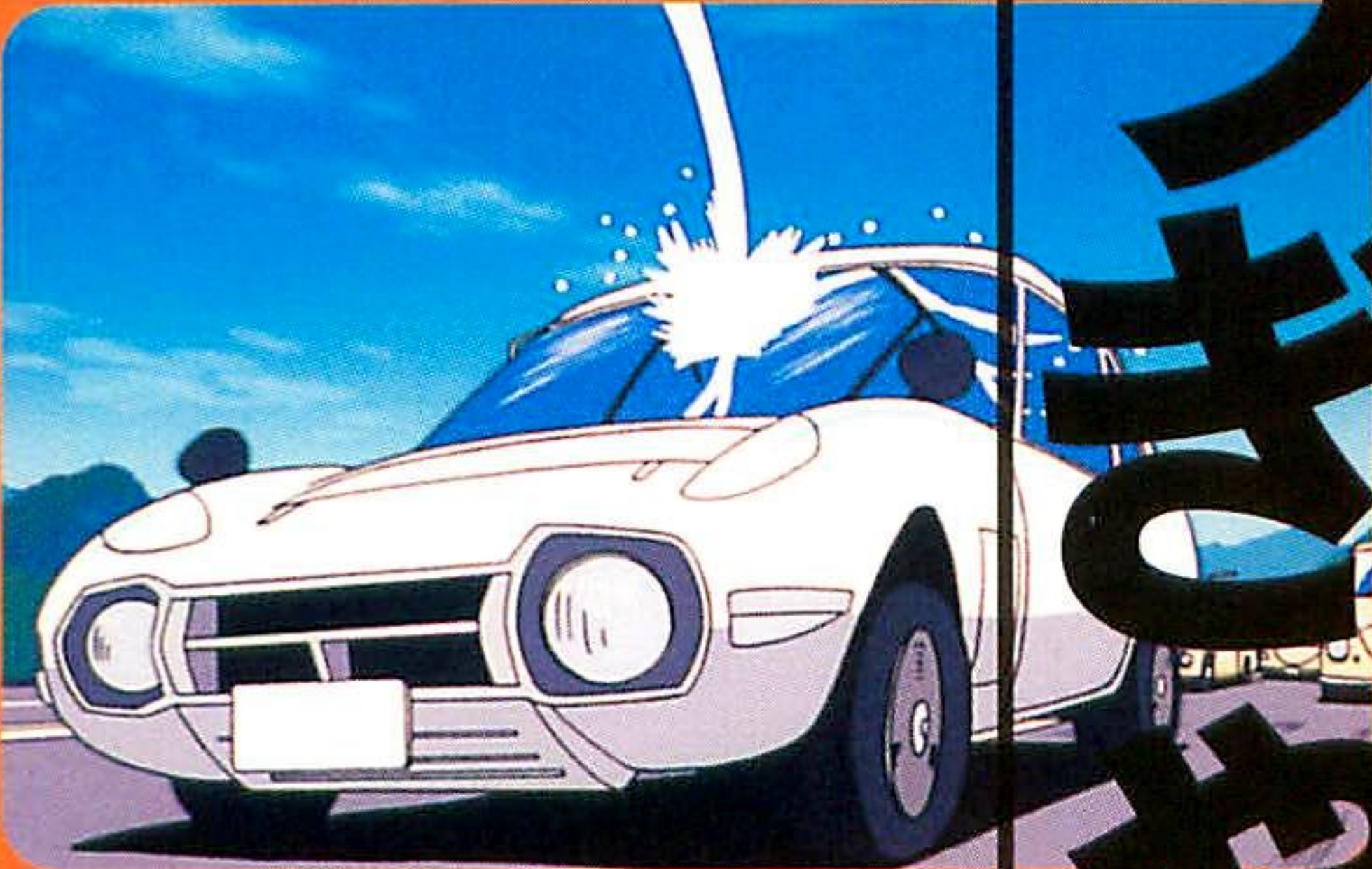
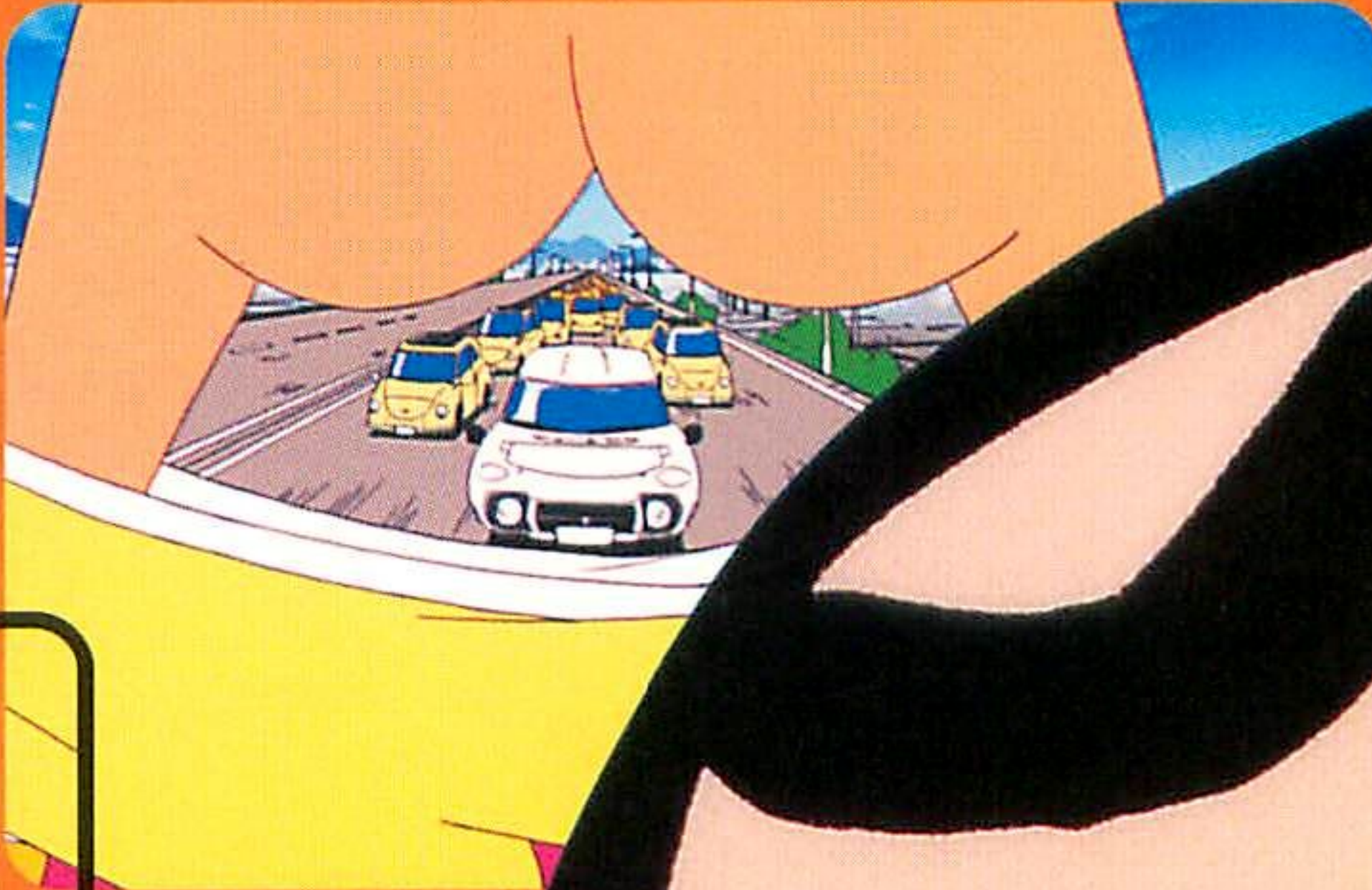
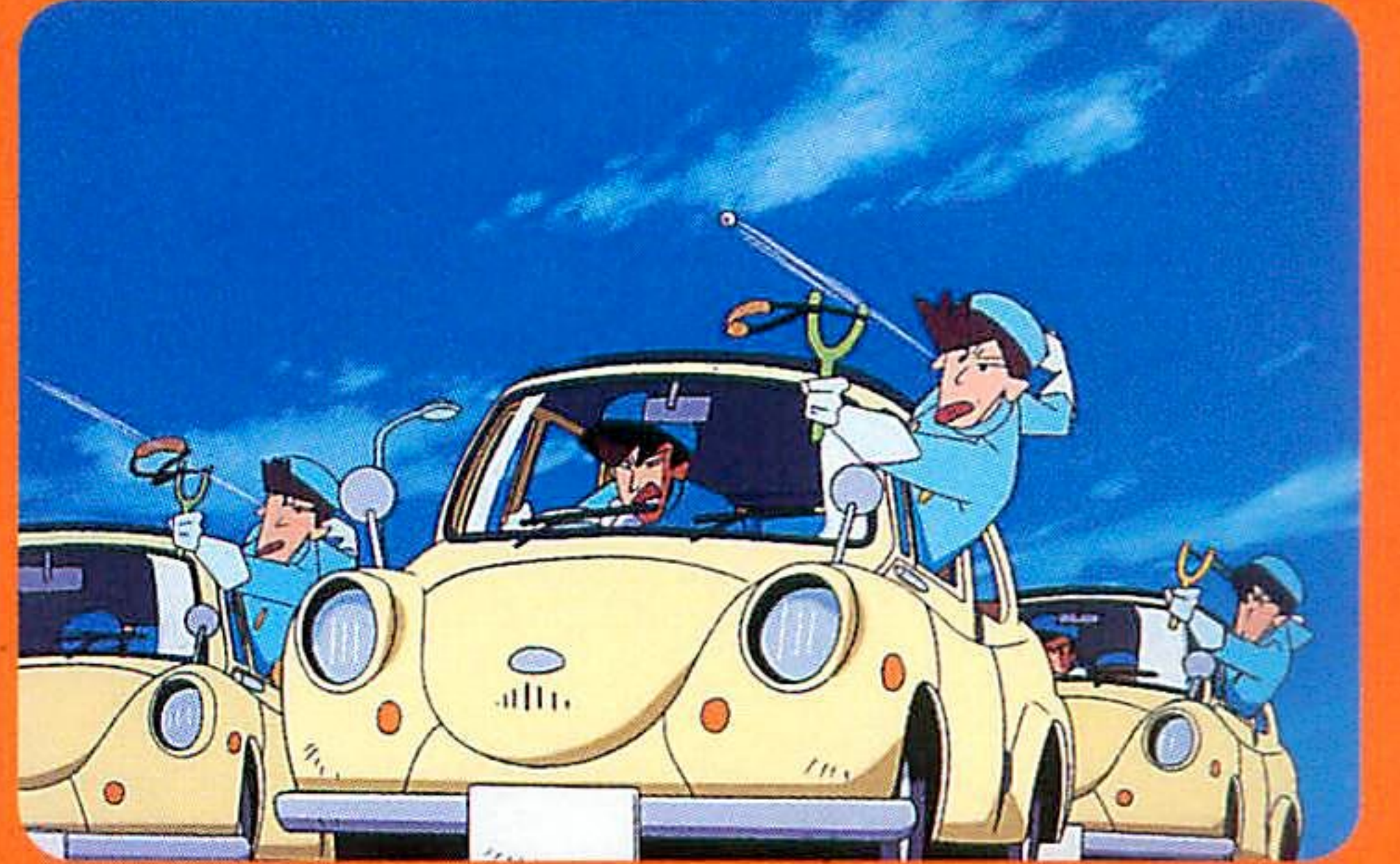
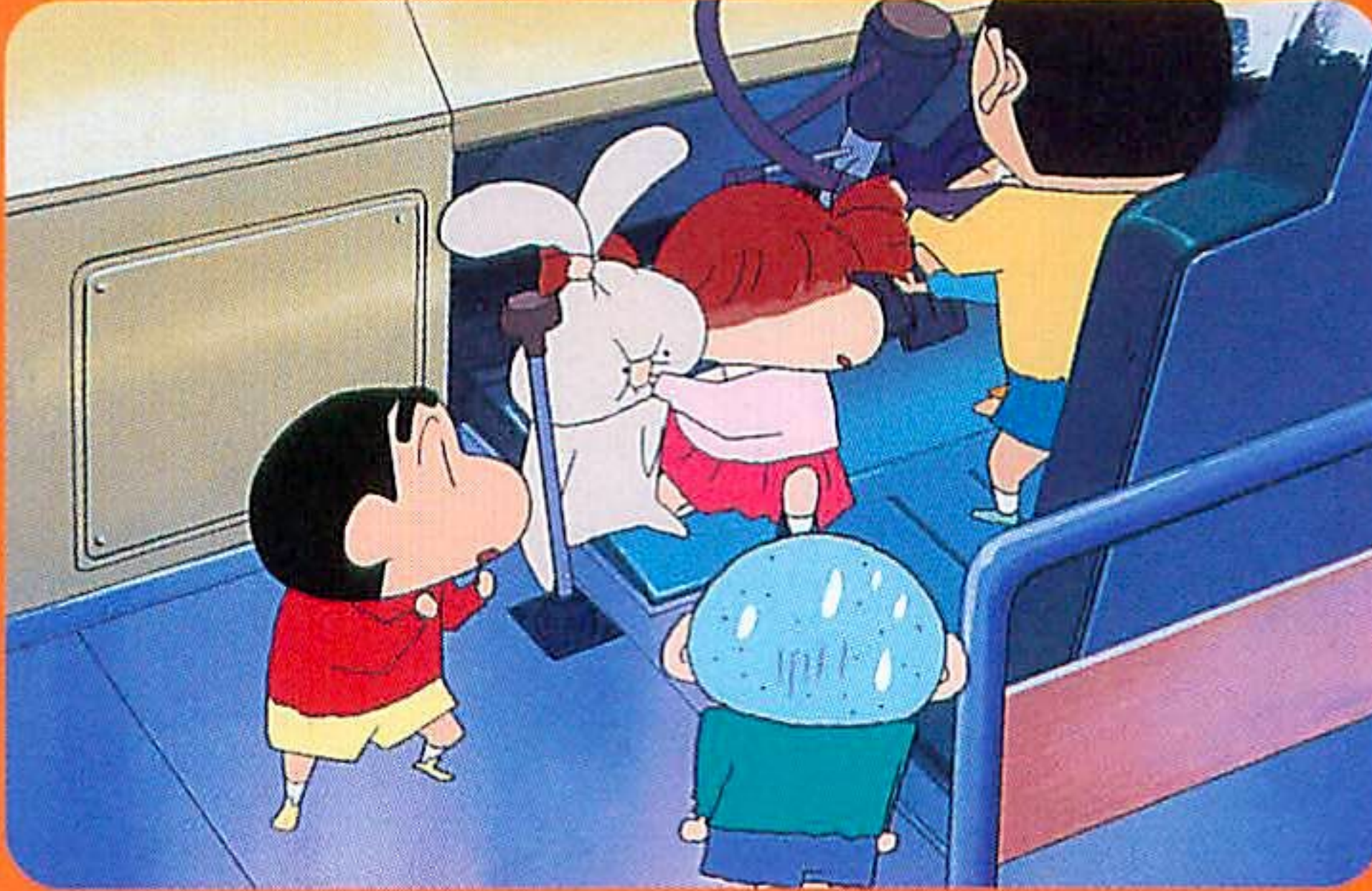
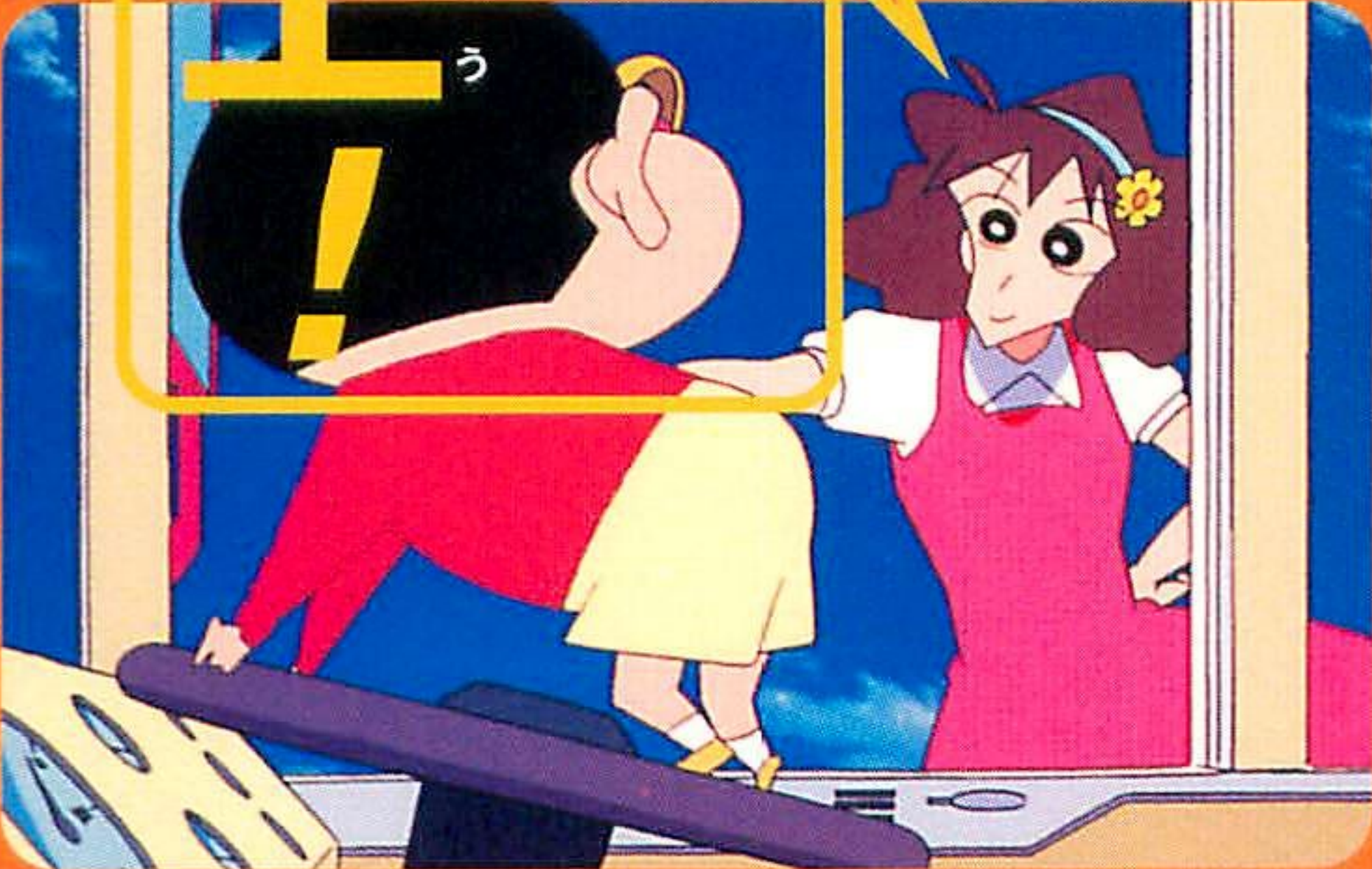
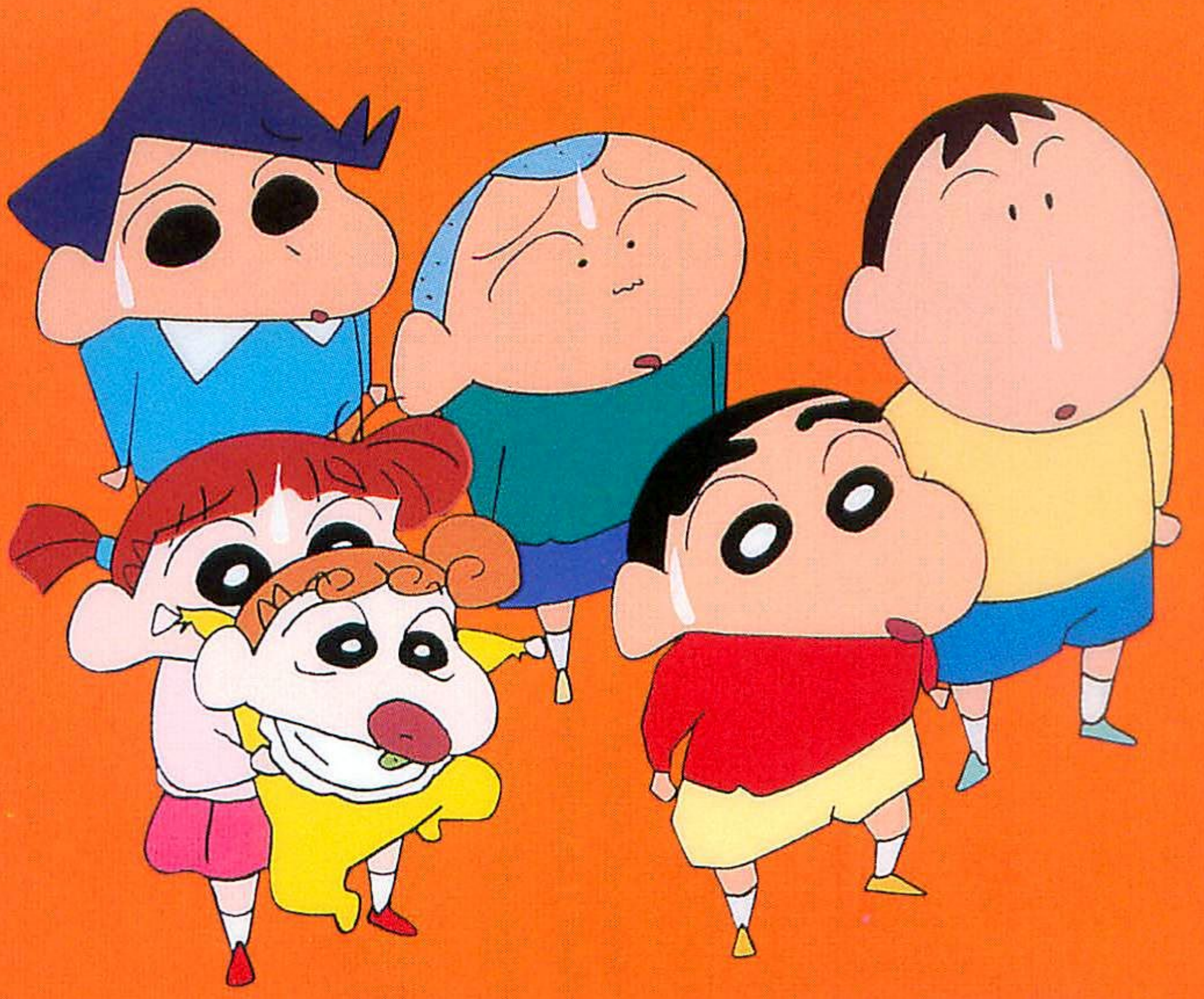
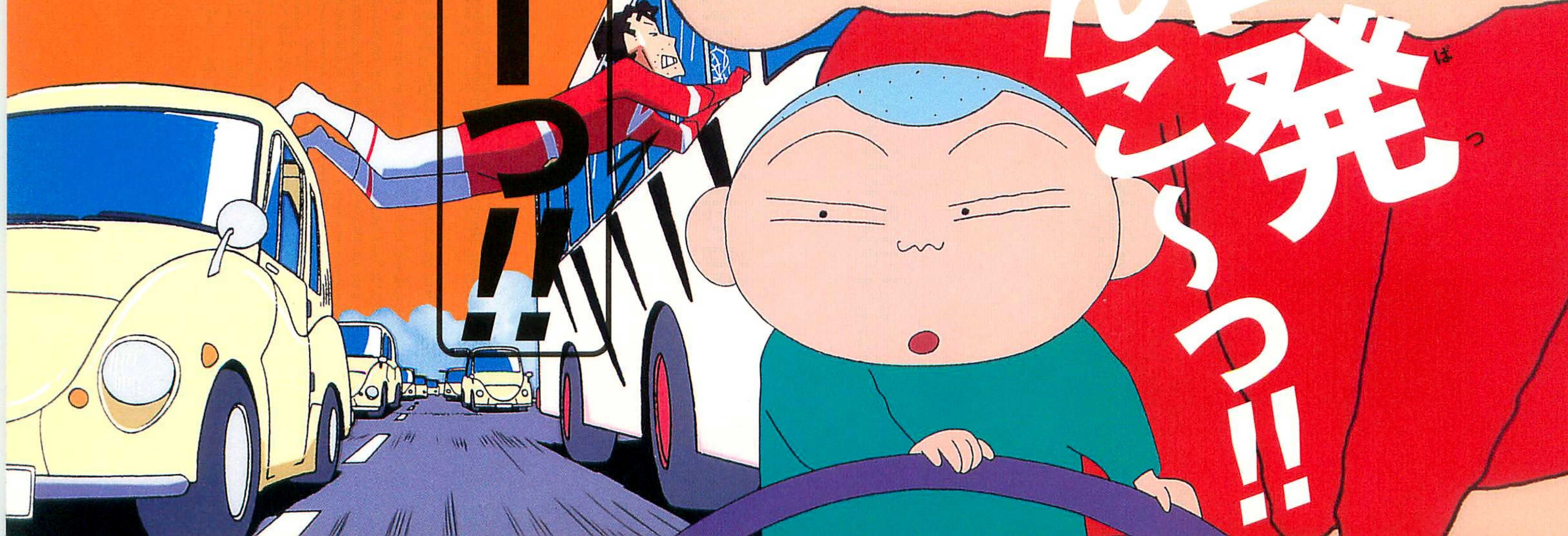
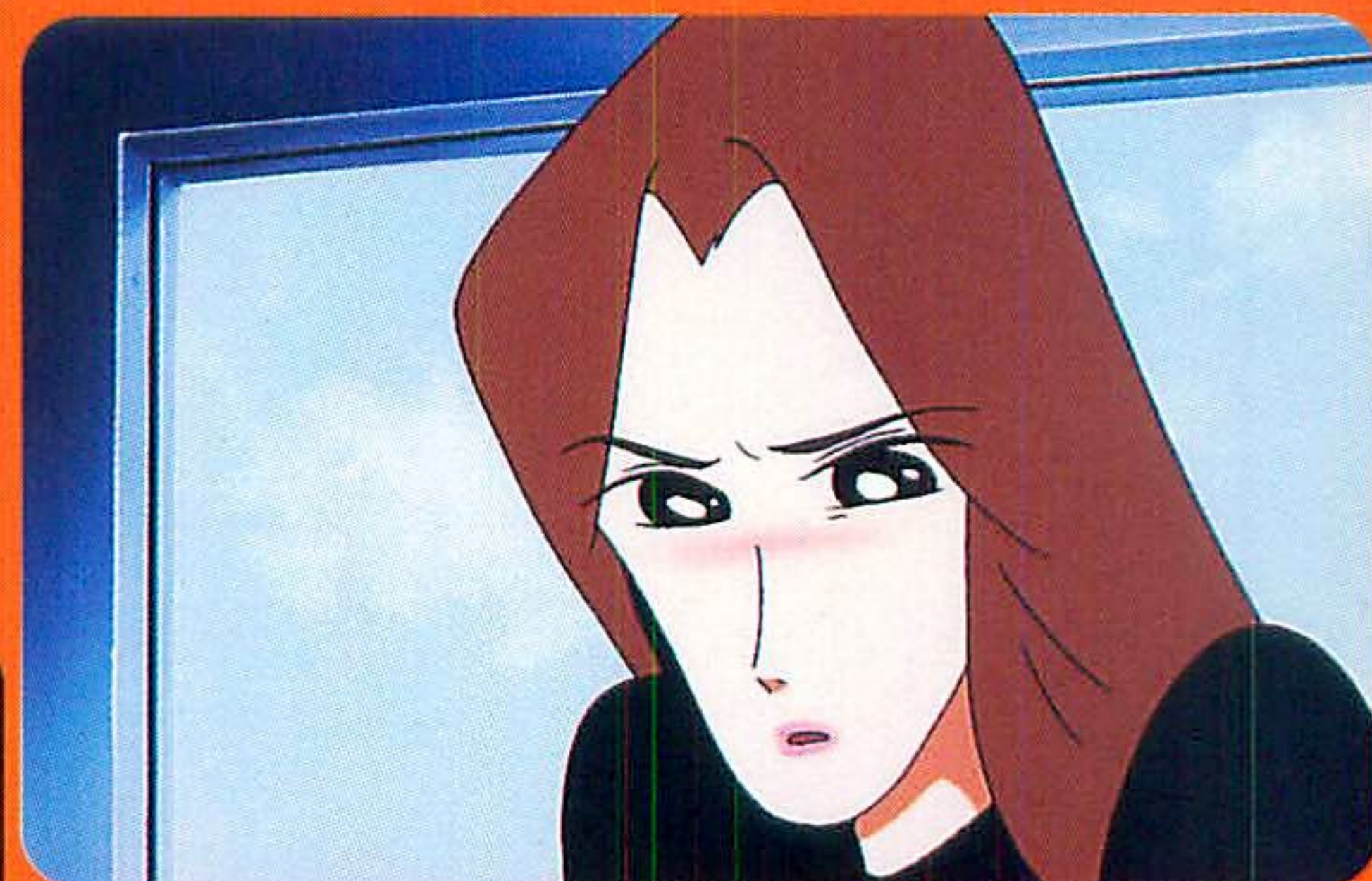
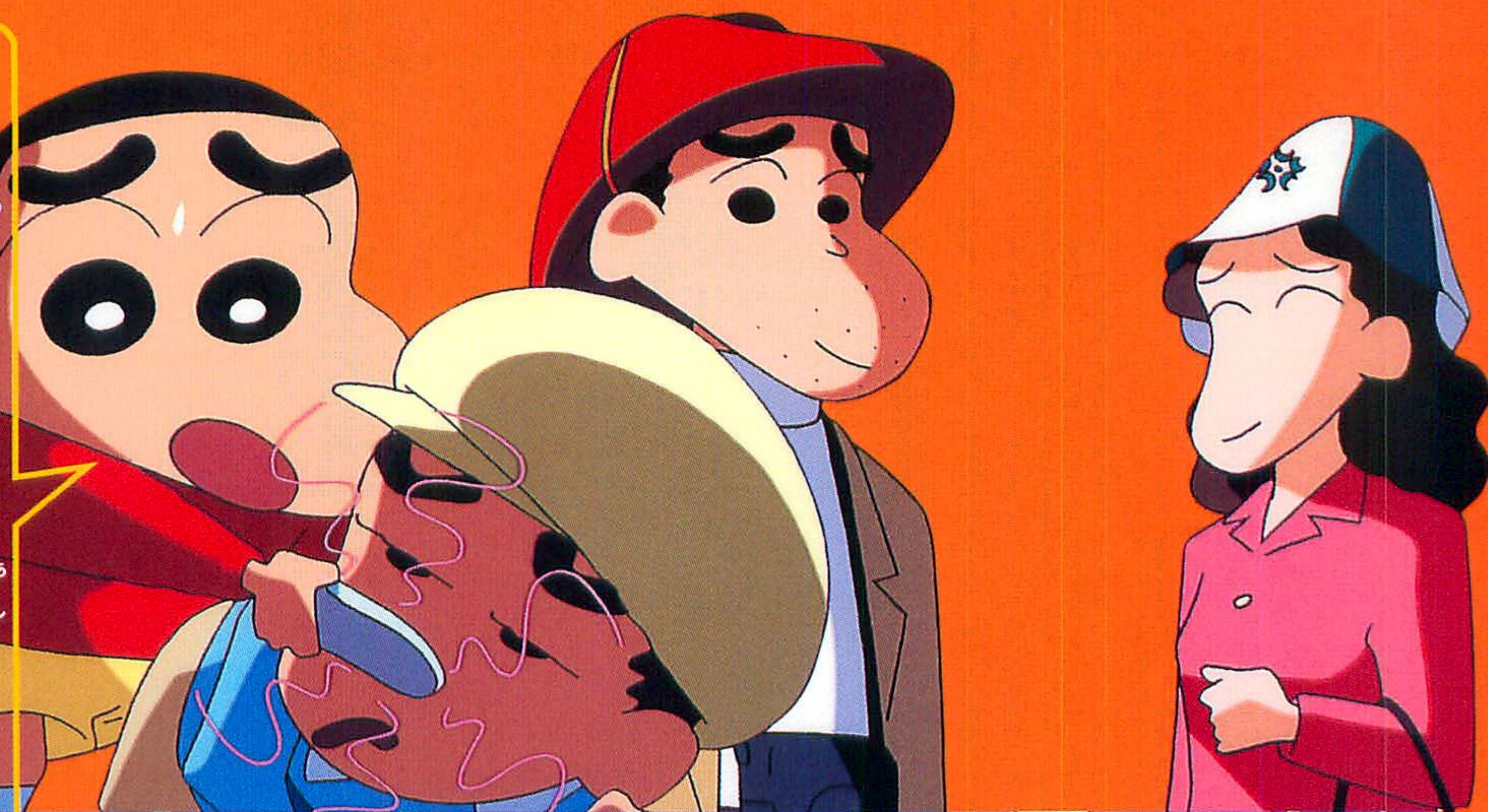
物語

さいきんど～も「20世紀博」とかいうのにとーちゃんもかーちゃんもハマってるかと思ったら、突然へんなになっちゃった!! オラたちのこと放ってどこかに行っちゃったんだ。風間くんのところも、ネネちゃんのところも、ぼーちゃんやマサオくんのところのパパとママも、春日部中の大人がいなくなっちゃった。テレビもラジオも古い番組ばっかりになっちゃったし、ご飯を作ってくれる大人もいない。しかたがないからオラたちカスカベ防衛隊は、コンビニに行った。でもそこには人相の悪い小学生がいて、オラたちが食べる分はないって言う。なんとかもぐり込んだけど、ほとんど食べ物を持って出ることはできなかった。

野原しんのすけとその家族

野原家の長男しんのすけ、5歳。愛称しんちゃん。ふたば幼稚園ひまわり組の園児。正義の味方アク

カスカベ防衛隊

メンバーはしんのすけを中心に!? 自信家で、幼児とは思えない知識を持つ風間くん。男の子に負けない度胸を持ち、キレるとウサギのぬいぐるみを殴るメンバーただ一人の女の子・ネネちゃん。しんのすけを上回るマイペースさで、いつも鼻水を垂らしてボーッとしているが、時々すごくサエたことを言い、みんなを驚かせるボーちゃん。素直で優しく、そして気が弱くて泣き虫なマサオくん。全員ふたば幼稚園ひまわり組の園児。年齢は5歳。

ション仮面の大ファン。お気楽でマイペース。独創的なしんちゃん言葉をあやつる。しんのすけの家族は、のんびりした性格で、若い美女に弱い、双葉商事で営業第二係長をつとめる父・ひろし(35歳)と、ケチでみえっぱりだが、基本的にはお気楽な専業主婦の母・みさえ(29歳)、光りものとハンサムな男に弱く、こわいもの知らずでしんのすけをしのぐパワーを持つ妹のひまわり(0歳)、しんのすけに拾われ、変身術をしこまれた野原家の飼い犬・シロの3人と一匹。埼玉県春日部市の一戸建てに住む。
ふたば幼稚園の先生たち
人相は悪いが子供好きで優しい園長先生。いつもしんのすけに振り回されるひまわり組の担任よしながみどり先生。ハデ好きでみえっぱりなばら組の担任まつざかうめ先生。そして幼稚園の先生なのに子供が苦手で、メガネをはずすと突然ガラが悪くなる上尾ますみ先生。この個性あふれる4人の先生によってふたば幼稚園は成り立っている。
上尾先生
まつざか先生
よしなが先生
園長先生
ひろし
みさえ
未来は失われるのね。
チャコ
とーちゃんとかーちゃんがどっか行っちゃった
帰んねーと痛いめみるぞ!
ボーちゃん
風間くん

夜になったら電気が消えて、街は真っ暗。ラジオから「イエスタディワンスモア」のケンとかいうおじさんの声で、大人は「20世紀博」で子供に戻って楽しく遊んでるから、オラたちも迎えの車に乗って来いっていう。何がどーなってるの!? ケンとかいうおじさんが言ってた「オラたちの未来は消えた」ってどういうこと!?

オラたちカスカベ防衛隊は、「20世紀博」の迎えの車に乗らなかった。そして次の日の朝、とーちゃん、かーちゃんたちがすごい怖い顔をしてオラたちを捕まえに来た。ほんとにどーしちゃったの！ とーちゃん、かーちゃん!!
デパートの中に隠れていたオラたちは、逃げきれなくなって、やっぱりへんなになった園長先生のバスに乗り込んで、みんなで運転して逃げることに……。なんでもやってみればできるもんだ。
魔法少女みさリン参上！
うぎゃーっ!!
出発おしんこ～っ!!

とーちゃんの足より
臭い匂いなんてないって!
オラたちはバスで必死に逃げた。それはそれはなかなかのカーバトルだったゾ。そうして着いたところは「20世紀博」だった。風間くんたちみんなはそこで捕まったけど、オラとひまわりとシロはなんとか逃げた。そんな時、オラは子供になっていたとーちゃんを見つけた。だけどとーちゃんの臭い足の匂いを嗅がせたら、目を覚まして、ようやくいつものとーちゃんに戻
はちよ~

った。なが～い夢を見ていたみたいだ。かーちゃんにも同じようにとーちゃんの足の匂いを嗅がせたらいつものかーちゃんになった。だけどまだ「20世紀博」を作ったケンおじさんのたくらみは終わってない。ケンおじさんはオラたちに「本気で21世紀を生きたいなら行動しろ。未来を手に入れてみせろ」って言う。野原一家、ファイヤー！　どうすればいいかわかんないけど、とにかくいくゾー！
「21世紀はオラが守るゾ！」
未来を手に入れてみせろ
みさえ、行け！
とーちゃん、助けに来たゾ！
おしまいね…

懐かしの20世紀

映画「クレヨンしんちゃん　モーレツ！　オトナ帝国の逆襲」に登場する

今日までそして明日から

作詞・作曲・編曲：吉田拓郎　歌：よしだたくろう

私は　今日まで　生きてみました
時には誰かの　力を借りて
時には誰かに　しがみついて
＊私は　今日まで　生きてみました
そして　今　私は思っています
明日からも　こうして　生きて行くだろうと

私は　今日まで　生きてみました
時には誰かを　あざ笑って
時には誰かに　おびやかされて

＊くりかえし

私は　今日まで　生きてみました
時には誰かに　裏切られて
時には誰かと　手をとり合って

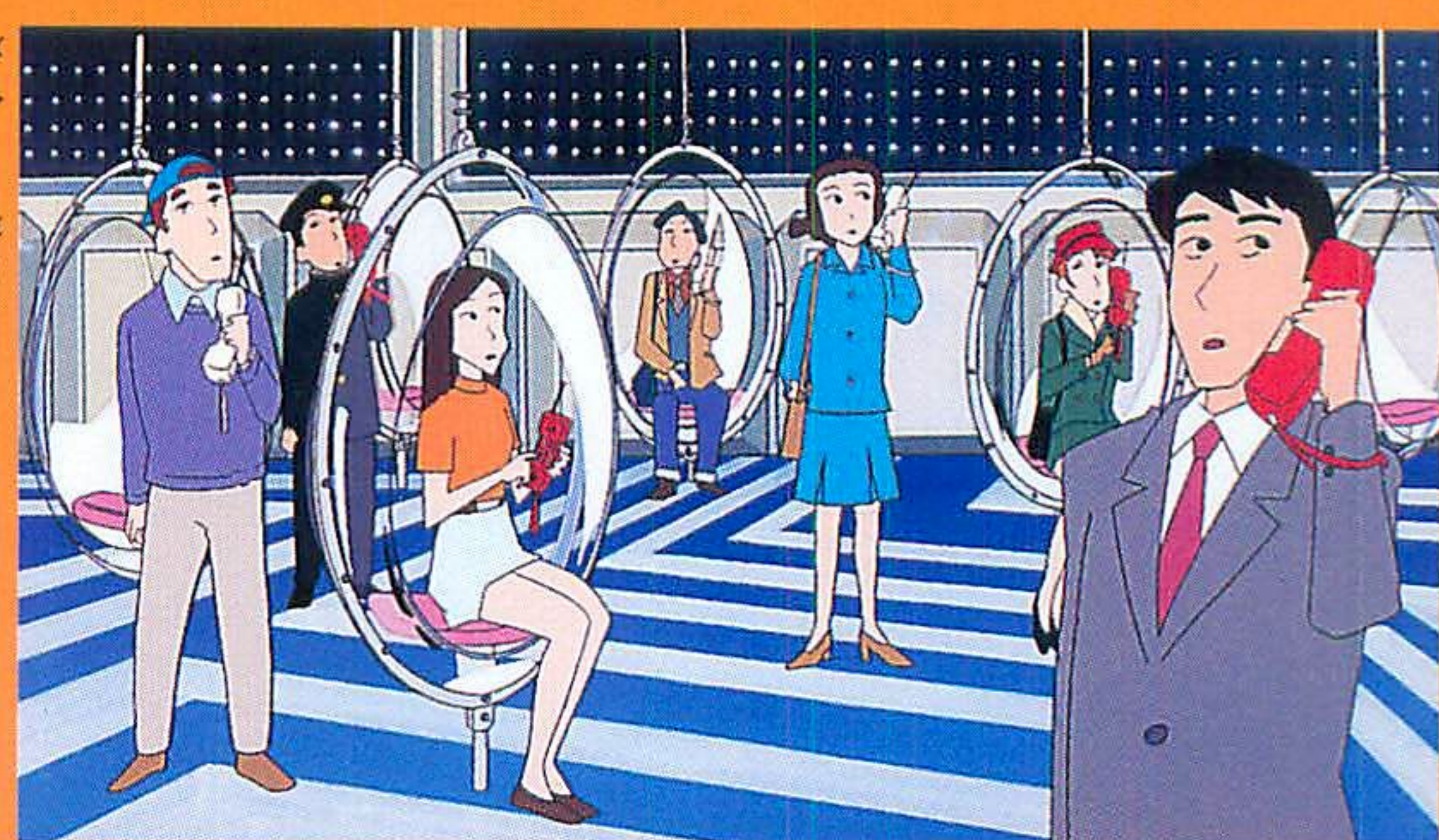
＊くりかえし

私には　私の生き方がある
それは　おそらく　自分というものを
知るところから　始まるものでしょう

けれど　それにしたって
どこで　どう変わってしまうか
そうです　わからないまま　生きて行く
明日からの　そんな私です

私は　今日まで　生きてみました
私は　今日まで　生きてみました
私は　今日まで　生きてみました

＊くりかえし

万博

この映画の冒頭に登場した万博とは、劇中でみさえが解説した通り、1970年に大阪府吹田市で開催された日本万国博覧会（EXPO'70）のこと。「人類の進歩と調和」をテーマに、世界77カ国、民間企業、団体が多数参加し、工業製品、科学機械、美術工芸などの新しい文化の創造や産業技術の発展、都市開発の促進に向けて、さまざまなものを展示し、一般公開した一大イベント。半年間の開催中の入場者数は6421万人といわれている。現在、開催地だった場所は記念公園となっている。今回、この映画を作るにあたり、原監督は跡地へ行ってきたらしい。

特撮ヒーロー番組

日本の特撮ものの歴史は、1949年に製作された映画「透明人間現わる」からはじまる。その後も「戦艦大和」（53）や「ゴジラ」（54）など次々に特撮映画が作られたが、テレビ番組が作られるようになったのは、さらにその9年後の'58年からのこと。はじめて放映された特撮番組は「月光仮面」だ。今回、ひろしが「20世紀博」で自分がヒーローになりきって演じているのは、第1次怪獣ブームと言われた'68年に放映された「ウルトラマン」を思わせる。ウルトラマンシリーズは現在も人気絶頂で、テレビや映画で新シリーズが作り続けられている。ちなみに原監督は大の「ゴジラ」ファンだったそうだ。

魔法少女アニメ

特撮ヒーロー・ひろしSUNになったしんのすけの父・ひろし同様、しんのすけの母・みさえは魔法少女アニメのヒロインに変身。その名も魔法少女みさリン。1960年代の終わり頃から魔法少女を主人公にしたアニメははじまり、たちまち現実の少女たちの心をとりこにした。その代表的な作品といえば「魔法使いサリー」（66～）「ひみつのアッコちゃん」（69～）「魔女っ子メグちゃん」（74～）などがある。魔法少女みさリンは、これらの作品の中のいずれかを意識したものという印象がある。これらの物語のほとんどは、魔法界から人間界へ修行をしにやってきたヒロインの成長物語で、人間に魔法使いだと知られてはならないというところがスリリングだった。

ケンとメリー（愛と風のように）

作詞・作曲・編曲：高橋信之　歌：BUZZ

いつだってどこにだって
はてしない空を風は歌ってゆくさ
今だけの歌を
心はあるかい愛はあるのかい
スプーンとカップをバックにつめて
今が通りすぎてゆく前に
道のむこうへ出かけよう
今が通りすぎてゆく前に
愛と風のように
愛と風のように

いつだってどこにだって
知らない町を風は歌ってゆくさ
ふたりの歌を
心はあかるい愛はあるのかい
見なれた時計を部屋に残して
今が通りすぎてゆく前に
朝が来たら出かけよう
今が通りすぎてゆく前に
愛と風のように
愛と風のように
愛と風のように……

聖なる泉

「モスラ対ゴジラ」より

作詞・作曲：伊福部　昭　歌：ザ・ピーナッツ

Na intindihan mo da
Mairoun doan maganda baron
Punta Ka lang dito
Ka lang dito
Harika,at marupo
Harika,at marupo
rururu…

白い色は恋人の色

作詩：北山　修　作曲：加藤和彦
編曲：若月明人　歌：ベッツイ&クリス

花びらの白い色は　恋人の色
なつかしい白百合は　恋人の色
ふるさとの　あの人の
あの人の足もとに咲く　白百合の
花びらの白い色は　恋人の色

青空のすんだ色は　初恋の色
どこまでも美しい　初恋の色
ふるさとの　あの人と
あの人と肩並べ見た　あの時の
青空の澄んだ色は　初恋の色

夕やけの赤い色は　想い出の色
涙でゆれていた　想い出の色
ふるさとの　あの人の
あの人のうるんでいた　ひとみにうつる
夕やけの赤い色は　想い出の色
想い出の色　想い出の色

車

この作品に登場する懐かしいもののひとつに、車がある。はっきりどんな車種のものが登場していたかを説明するのは難しいが、原監督がこの映画を作る際にこだわったという1960年代から70年代に良く街で見かけた車といえば、コロナ1600S、初代プリンススカイライン、ケンメリのスカイライン、初代セリカ、オート三輪ミゼット、大型オート三輪、日野コンテッサ、コルト600、'63年式ブルーバード、スバル360、トヨタ2000GTなどがある。もしかしたらこれらに似ているものが登場しているかもしれない。

めんこ

20世紀博の懐かしい遊びを心ゆくまで楽しめる広場・プレイゾーンで大人たちがやっていた遊びの一つに「めんこ」がある。丸や四角に切ったボール紙に絵を描いたフダを作り、数人でそのフダを地面に叩きつけて人のフダを裏返したり、自分のフダを人のフダの下に入れたりした者が勝ちとなるゲームがそれだ。学校の給食に出たビンの牛乳のフタに絵を描き、めんこのフダとして遊んでいたこともあったようだが、後にマンガやアニメなどが流行りだすと、キャラクターの絵が描かれたフダが売り出され、それを集めて対戦するようになった。

缶けり

しんのすけがひまわりを背負って幼稚園に行った時、先生たちがやっていた遊びを「缶けり」という。「かくれんぼう」の一種で、缶をひとつ立てた陣地に、鬼になった人が一人残り、近くに隠れた仲間たちに缶を蹴飛ばされないように気をつけながら、隠れた仲間を探す遊び。缶を蹴飛ばされないまま、隠れた仲間を全員見つけられたら鬼の勝ち。隠れていたはずの仲間に缶を蹴飛ばされてしまったら鬼の負け。

ほーほー、20世紀っていろんなものがあったのね。

脱脂粉乳

20世紀博のレストランで味わえる懐かしい味のものとして登場するものの一つに脱脂粉乳がある。牛乳から余分な脂肪分を取り除き、タンパク質やカルシウムなどは牛乳の時のままになった脱脂乳を、濃縮、乾燥して粉末にしたもののこと。ヨーグルトなどの原料として使用されている。現在はそのまま食すことはほとんどないが、その昔は身体にいいものとして学校給食などにも出されていた。

アナログレコード盤

20世紀博が出来てから少しずつ変わりはじめた春日部のCDショップに大量入荷されたというアナログレコード盤とは、音声が記録されている円盤のことで、盤面に切られた溝の凹凸によって音が記録されている。現在のCDが登場する前は、全てこのレコードがその代わりをしていた。専用のプレーヤーがあり、レコードの溝に針を落とし、レコードを回転させることで録音された音を再生した。だが、あまりにも何度も同じレコードを再生しつづけると、溝が針との摩擦によって削られ、音に狂いが生じたりもした。また湿気に弱く、保存状態が悪いとレコード盤そのものが歪み、再生することができなくなることもあった。しかし、そこに録音された音には温かみがあったと言われている。

足踏みミシン

ご存じ布や皮などを縫い合わせたりするために使われるミシンの一種だが、現在あるのはそのほとんどが多機能付きの電動のもの。だが、電動ミシンが開発される以前に使われていたのは、今回、チャコがアパートの一室で使っていた足踏みミシン。電気を使わずに、足でペダルを前後にリズミカルに踏むことで、備えつけられた針が動き、布や皮を縫い合わせていた。電動ミシンではなかなか縫い合わせていく時のスピード調整が困難だが、足踏みでは自分のペースでいくらでも速度を変えられたので、使う人によっては安心感があったという。

映画「クレヨンしんちゃん」特別企画

大人座談会!!

おとなざだんかい

日本の総理もこの映画を見ろ!!

今回の映画はなんといっても大人が主役。そこで、オラの声を演じている矢島晶子さんをはじめ、監督の原さん、とーちゃん役の藤原啓治さん、かーちゃん役のならはしみきさん、それからひまわりを演じているこおろぎさとみさんにこの映画のこと、20世紀のことを語ってもらったゾ。題して、「20世紀ってそんなに懐かしい?」はじまり、はじまり。

4歳のひろしは原監督!?

——監督はこの映画の冒頭に出てきた1970年に開催された万博に行かれたそうですが。

矢島★えー! 行ったんだ。あんなだった?

原★あんなだったです。

矢島★学校で?

原★いえ、個人で。どうしても行きたくて親を拝み倒して連れて行ってもらったんです。

矢島★いいなぁ。

こおろぎ★太陽の塔のお土産はもらったことあったけど、行けなかった。

ならはし★私も。

——藤原さんは万博には…。

藤原★「ちょ、びっと」行きたいって思ってましたね。

全員★爆笑。

ならはし★(笑)何よ「ちょ、びっと」って。ということは万博に行ったのは監督だけなんだ。興味があったんですか?

原★ありましたね。

ならはし★月の石とか見たかった?

原★ええ。でも、見れなかったんですよ。

こおろぎ★行列してたから諦めたの?

原★親に諦めさせられたの。

ならはし★それって今回の映画に出てくる4歳のひろし…。

原★そうです。そうです。

ならはし★そういうことだったのか。妙にリアルな描写だなって思ってたんですよね。

原★でもああいう体験をした人は多いみたいですよ。

この映画のすごいとこって懐かしい気持ちを敵にしたこと

矢島★チャコとケンがいるアパートは、映画にあった「トキワ荘の青春」とかをモデルにしてたりします?

原★いえ、何となく頭の中にあったやつを。僕自身もあれに近い所に住んでるんで。

矢島★私も子供の頃はああいう家に家族でぎゅうぎゅうづめの状態で住んでて嫌だったけど、今はああいう家に憧れて、あえてああいう物件があったら住みたいって思ってる。

こおろぎ★何で昭和30年代、40年代ってそんなに懐かしくて明るいイメージがあるかって言ったら、楽しかったんだよね、その時代が。

ならはし★まして私たちを含む今の30代、40代の人たちは戦争を全く知らないから、物がなくて大変だった時代を知らないわけでしょ。そういう意味では一番自然に好き勝手に野放しに生きていた感じだから、楽しい思い出しかないのよね。

こおろぎ★何かして遊ぶにしてもその道具は自分達で作ってっていう世界だったしね。

矢島★そうそう。ルールも自分たちで決めて。

藤原★僕ね、今回の映画のすごいところは、そういう昔を懐かしがる気持ちを敵にしたところにあると思うんですよ。バブルの時みたいに景気がものすごくいい頃だったら、あんまりそういう風には思わなかったかもしれない。でも今みたいな感じだと、なんとなくそういう少し前の物がよく見えちゃう。そこをこの映画は突いているわけでしょ。それはね、本当に上手いなって思う。

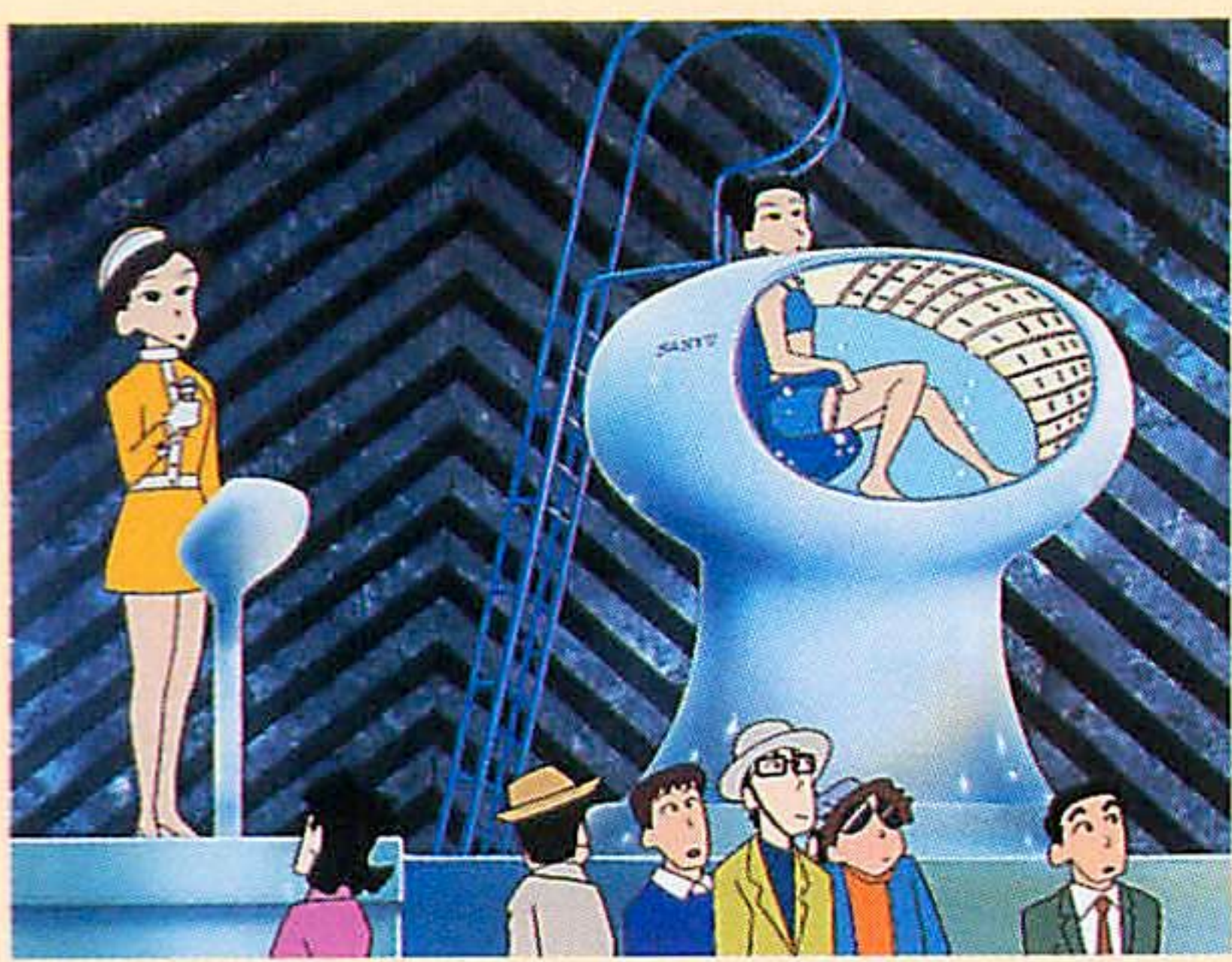
原★というかその万博があった頃に、21世紀ってものすごい時代になるんだって思っていたのが、実際なってみるとたいして変わらなかった。そう実感した時に、時代が変わるっていうのは、実は前の時代を乗り越えるっていう部分がなければいけないと思ったんですよ。その役を今回の映画の中でしんちゃんにやってもらいたかったんです。これから先の時代を生きていくのに、僕らが想像していた21世紀と違っていたからといって、いつまでも20世紀のままの時の気持ちのままでいるわけにはい

かないですから。
それでね、そのためにはやっぱり待ってちゃ変わらないし、駄目なんじゃないかなって思うんですよね。僕らの親の世代っていうのはその点すごかったですよね。時代が貧しかったっていうのもあるんでしょうけど、まず仕事に対する意識が違う。とにかくもっと便利な世の中にしたいんだっていう心からの思いでそれぞれに何かに挑んでいたっていう印象があるんですよ。失敗を何度も重ねても諦めない。あの根性は僕らとは違いますよね。かなわないですよ。

ならはし★いつから待つようになっちゃったんですかね？

こおろぎ★もう全部なんでもそろっちゃってるからね、今は。

ならはし★それで何の不便もないから待ってればもっといいことあるかなって考えるようになっちゃったのかな。

原★だから今回のケンとチャコじゃないですけど、真剣に何かを望む気持ちを持てれば、これから先も、またちょっと違う時代になっていくのかもしれないという期待はあります。

こおろぎ★奥が深いんですね、今回の作品は。

原★いやぁ、実は口からでまかせで（笑）。

この映画を見て日本をよく知ってほしい

藤原★ケンちゃんとチャコちゃんにはモデルがいるんですか？

原★特にはないですね。ただ、僕の中にあの二人のような思いがすごくあるんです。

矢島★そういえばこの映画のポスターのケンの顔、原さんに似てたよね。

ならはし★でも、何かああいう自分達の理想の街を作ろうとする人達が出てきても不思議じゃないみたいな気がする。

こおろぎ★人を巻き込まなきゃいいんだよね。

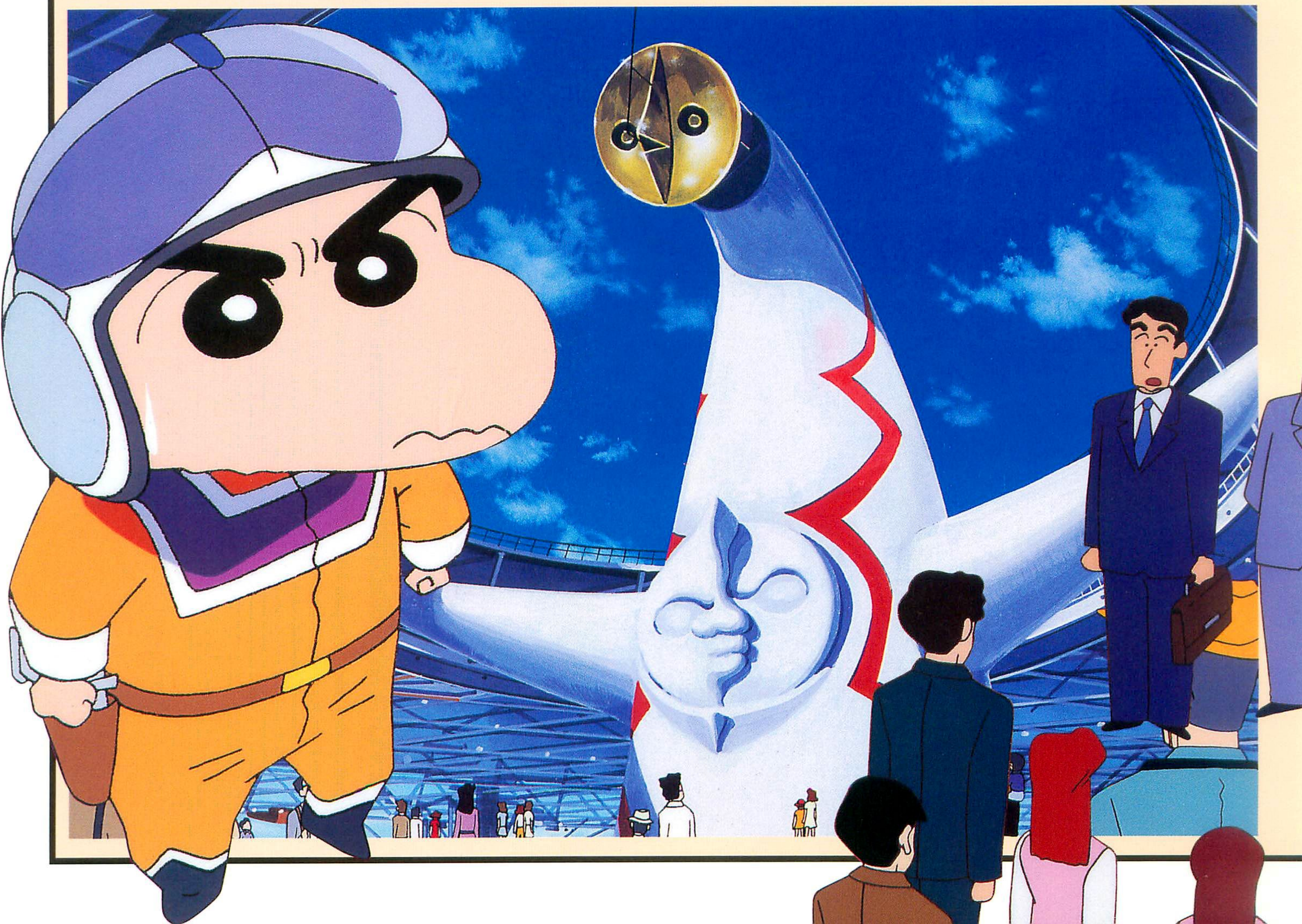
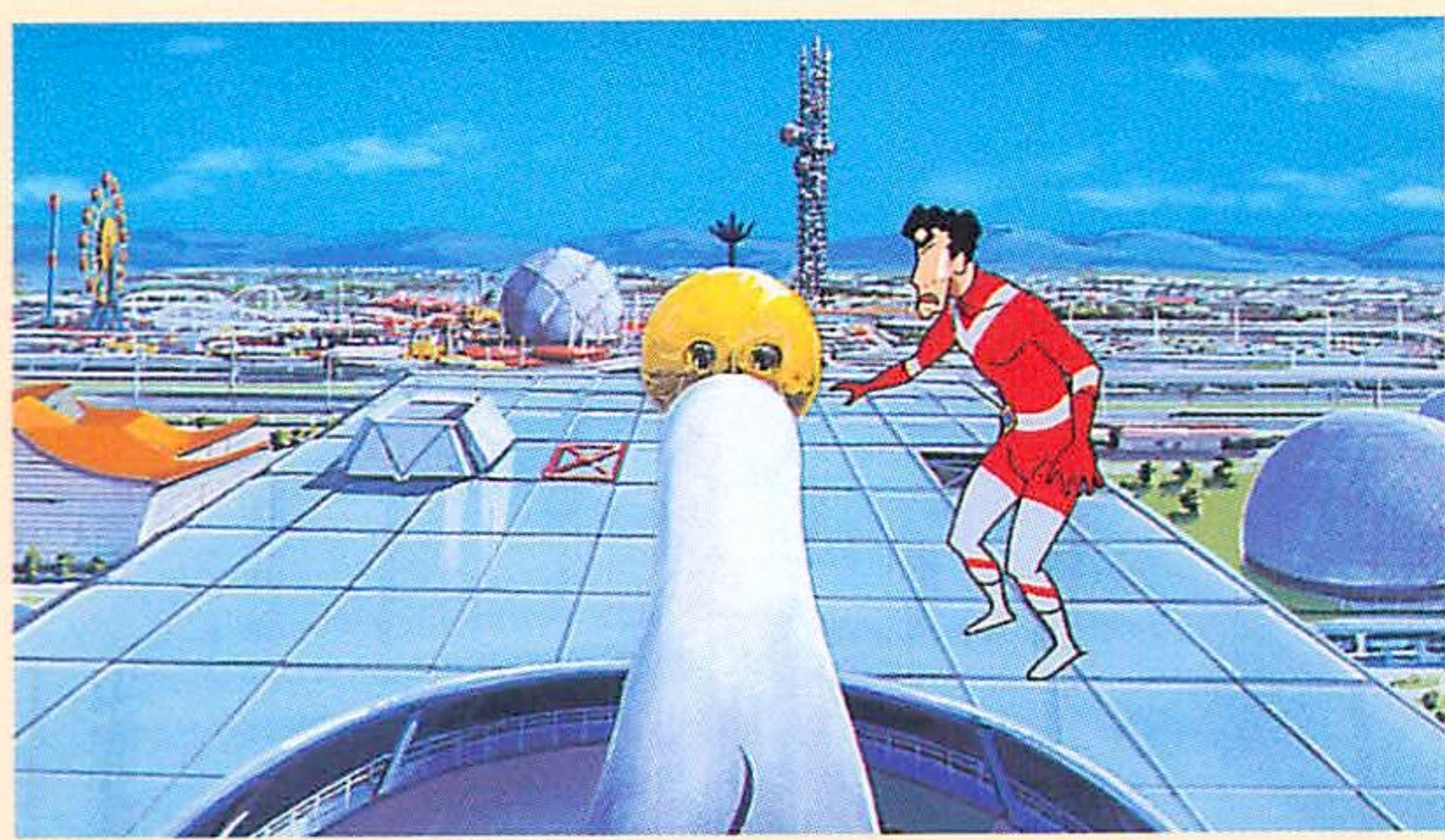
原★それがどうも日本は皆で同じ方向に行っちゃいますからね。もっと昔にこだわって生きる人もいれば、そうじゃない人もいるっていう感じで、いろいろな思考を持って生きている人がいていいはずだと思うんだけど。

こおろぎ★この映画を見た子供たちが、私たちが懐かしいと思う時代を「へぇ、こうだったんだ」って思ってくれればいいなって思う。それで日本の良さをもっともっと知ってもらいたい。

自分の周りにあるとても便利な物とか、自分に対して優しい物の良さを見直してもらえたらいいなぁ。日本はいいとこなのだから。英語もいいけど日本語もいいよっていう感じですね。

原★本当に日本はいい国ですよ。

藤原★20世紀を懐かしむ気持ちと、21世紀に向かう勇気を、特に今の30代、40代の日本人に持ってもらいたいですね。

矢島★この映画を見て、たいがいの大人は「懐かしい」と感じると思うけど、何で懐かしいと思うのかちゃんと考えて、大人がしっかりして欲しいなって思う。大人の中身がゴチャゴチャだから子供がどうしたらいいのかわからなくなってるんで、大人が基本に帰って、これから自分たちが何をしていけばいいのか、ちゃんと考えて行動してほしいな。そうすれば、自然と子供たちにも伝わっていくはずだから。そうやって世の中みんなで頑張っていけば、21世紀が終わるまでにはなんとなくまたいい感じの時代になるかもしれないよね。それからしんのすけとしては、「日本の総理もこの映画を見ろ!!」って声を大にして言いたいゾ。

津嘉山正種（ケン）「未来は君たち自身が作っていかなければならない」

今の時代、大人が大人じゃないと思うんです。大人が大人としての責任を果していないと感じるからです。その結果、子供たちが非常に殺伐とした事件を起こすようになった。その原因は大人にある。私はそう思っています。

この作品の中で、私が演じたケンが、「夕焼けは人を振り返らせる」という台詞を言いますが、昔は夕焼けを感じる心があったんです。そういう自然を感じる心、自然の中で生きるという感覚が今、どんどんなくなってきています。20世紀も21世紀も、その時代、時代で、いいところも、悪いところもある中で、最後まで大事にしなきゃならないことに、人の心や人情といったものがあると思います。それが今、現実になくなってきている。この物語の中で、ケンがこだわったのはそうした心の部分ではないかと感じています。その気持ちは、とてもよく理解できます。私も未来には希望を持っていませんから。ケンがやろうとしたことは、そういう意味では正道だったといえるでしょう。

時代は、これからも悪くなる一方です。こんな時代になってしまったことに、私は一人の大人として非常に恥ずかしく、反省しています。そしてこれからの時代を生きていかなければならない子供たちに言いたいです。未来は、今の堕落している多くの大人に頼ることなく、君たち自身が作っていかなければならないと。ごめんなさいね、こんな時代にしてしまって。（談）

小林愛（チャコ）「強く、たくましく生きろよ」

チャコという役は、悪役と言いつつ妙にもの悲しい役で、「クレヨンしんちゃん」にこういう役柄の人物が出てくるというのは面白いなって思いましたね。そのチャコにとって、20世紀はこの物語のキーになる「匂い」というよりも、「温度」だったのではないかと感じています。私自身、20世紀の方が、21世紀になった今より温度的に温かい印象があるからです。チャコはその20世紀の温もりに捕らわれすぎて、ケンの考え方に同意していたんじゃないかと思います。

ケンとチャコの関係については、いまだに謎ですが、ケンという人は、チャコに比べてすごく大人だなあと思いますね。チャコは感情が表に出て、自分の感情に振り回されて生きているけれど、ケンはそういう自分の感情を超越したところで自分のやるべきことをやっている。そんな風に思えるからです。そういう意味ではチャコがケンと一緒に生きていこうとした気持ちはなんとなくわかるような気がします。

この物語は、敵、味方ということではなく、20世紀の温もりにこだわった20世紀の代表としてのケンとチャコが、21世紀の代表的なしんちゃんとぶつかって世代交代したというものだと思っています。そして新しいものを受け入れられずにいたチャコは、最後は死なずに、21世紀の中で生きていく決心をした。それはとても良い結末だったと感じています。

チャコは強くなかったですけど、この映画を見る子供たちには、「強く、たくましく生きろよ」って言いたいです。（談）

ケンちゃんもチャコちゃんも奥がふか〜いのね。

ランラ ランラ ラ〜ン！ あっ、コサキンだ！

本物だよぉ〜 嬉しいなぁ

オラの映画に出てくれたの？

しんのすけ●でもさ、前にどっかで会ってない？
関根▲そうよ。映画「暗黒タマタマ大作戦」の時に、ニコニコ健康ランドの廊下でしんちゃんとすれ違ったサラリーマン。あれ、僕らだったのよ。
しんのすけ●おー、そうだったねぇ。その時の味が忘れられなくてまた来ちゃったわけだ。
小堺■は〜い。また来ちゃいました。
しんのすけ●しょうがないなぁ。聞いたところによると、2人はオラの大ファンだっていうことだけど。
関根▲そう。僕なんかね、携帯の着信メロディをテレビシリーズの中で流れてる曲にしているくらい。映画も全部、見てるよ。
しんのすけ●えっ！　ほんと？　何がそんなにいいの？　やっぱりオラの魅力かなぁ。
関根▲おバカなんだけど、憎めない。そこだね。僕なんかしんちゃんを息子に欲しいくらい。娘もね、しんちゃんみたいな弟ほしいって言ってるよ。
しんのすけ●いやぁん。オラ、もてもて？
関根▲だからね、家族の中にしんちゃんがいたらきっと楽しいだろうなって、いつも想像させてもらってます。しかもさ、しんちゃんのギャグは冴えてるからね。勉強にもなる。
小堺■やっぱりしんちゃんって、おバカやっているんだけど、芯がちゃんとしているっていうかさ、人間でいうと幅があるんだよね。きっとこのままいったらしんちゃんは大人になってもてるんじゃないかな。
しんのすけ●いやぁ、それほどでも〜。
小堺■だって、面白くてちゃんとしてるから。
関根▲そういう意味ではさ、人の相談を受けるタイプだね。
小堺■女の子が落ち込んでる時、「大丈夫かい？」なんて二枚目風でいくんじゃなくて、お尻だして笑わせてからいい話をしたりしてね。
しんのすけ●ところでさ、2人がこうやって声優の仕事を一緒にやるのってはじめてって聞いたんだけど。
関根▲そういえばそうですね。でもラジオとかずーっと一緒にやってるから、コンビネーションはよかったよね。
小堺■やってることは10年前のままで申し訳ないんだけど。それからとてもお気遣いを頂いて、本人で出させてもらっているところが最初にあったから、入りやすかったね。
しんのすけ●今回の映画は「20世紀博」っていうところにとーちゃんたち大人が捕らわれちゃうっていうお話なんだけど、2人は20世紀って聞いてどんなこと思う？
関根▲僕はね、お笑い番組が好きで、「大正テレビ寄席」とか「クレイジー・キャッツ」とか良く見てましたから、そういうのを懐かしいなあって思い出す。今もそういう芸人さんが輝くような番組があればいいなあなんて思う。
小堺■僕はね、何かを思い出すとかっていうより、若者文化を作った人たちが今、置いてきぼりになってると思うんだけど、それをしんちゃんがこの映画の中でうまく突いてくれて、なんてタイムリーなんだろうって思った。そういう意味では今回の映画は大人がハマッちゃうんじゃないかな。
しんのすけ●そうなのよ〜。さすが、わかってる〜ん。
小堺■けっこう深いテーマのお話だよね。
しんのすけ●2人のシーンは面白いけど、オラのシーンは泣かせるしね。
関根▲そうなの？
小堺■いいですねぇ。
しんのすけ●「クレしん」はただのおバカムービーじゃないからね。

矢島晶子（しんのすけ）

A1★いろいろあったなぁ～。
A2★Na Leo の「THE REST OF YOUR LIFE」なんでか聴くだけで泣けてくる！　ザ・ブームの「ブランカット」出だしがイイ！
A3★「天空の城ラピュタ」とにかくひとめボレ♡です。この作品に！　あと、エンディング大好き♡　それと「クレヨンしんちゃん」理由？　言わなくてもわかるでしょ？「しんのすけ」は私のあこがれです♡から。
A4★「フェーム」理由？　んー、とにかく好きなんです！「トキワ荘の青春」大きな声で話す人がいないのがイイ！　静かで、そして地味に、激しい「流れ」が好きです。
A5★がんばったしんのすけを抱きかかえて、とーちゃんが「しんのすけ、おまえすげーよ！」と言ってるところ。親子というより、一人の人間として認めてるのがうれしいネ！

こおろぎさとみ（ひまわり）

A1★日本の正しい街並が消えつつある今、「昔は良かったなぁ」と心から思うのは、心から楽しい子供時代を過ごせたからだと思う。今のように、物があふれていなかったあの時代、何が楽しかったのかというと、何もなかったからこそ、自分たちでつくり出し、みんなで共有できた喜びが、今でも心にしっかりと焼きついているのだ。振り返れば懐かしいことばかりだ。
A2★「真夜中のギター」。理由…小さい頃、ミシンの台の下に入り込んでこの歌をうたいながら、土曜日の夜を楽しんだから。
A3★「海のトリトン」。理由…大きくなったらトリトン族になるんだと本気で思うほど、あの世界が好きだった。
A4★「荒野の七人」。理由…ジュリアーノ・ジェンマが好きだったから。でも他にもいっぱいある。
A5★昭和30年代を思わせる街の風景。全てはここから。

藤原啓治（ひろし）

A1★自分の生きた世紀をよい世紀であったと思いたい。しかし21世紀の生き方で、個人的な20世紀の評価が変わるでしょうね。
A2★たくさんありすぎて難しすぎる。でも昔からカラオケでよく唄うのは、矢沢永吉と沢田研二。たぶん気に入っているのだろう。
A3★う～ん、むずかしい。
A4★ぱっと思い出したのは、黒澤明の「どですかでん」。人間っていろいろあるけど、それでもかわいいもんだなーと思える映画で、小学生の時、はじめて見て以来大好き。でもほかにもいっぱいあるけどさ。
A5★ひろしの子供時代からの回想シーン。亡くなった父親にあいたいなーと思ったり、自分も父親になる日がくるかなーって思ったりしました。

ならはしみき（みさえ）

A1★世紀末・新世紀にいられて良かったというかラッキー!?　20世紀は好きなものがそばにあって、好きなことができて、とっても幸せだったな～と思います。
A2★「回想のかけら」by NoVela。ヴィジュアル系ロックにハマったきっかけなので。
A3★私はもとからあまりアニメをたくさんみてる方ではなかったので難しい質問ですが～これぞアニメのすごさ！　と感じたのは「風の谷のナウシカ」かな。
A4★「ファントム・オブ・パラダイス」と「ロッキー・ホラー・ショー」…ただ単に好きなんです。
A5★しんちゃんがボロボロになりながら、ケンとチャコに語るシーン。「オラ、大人になりたいから」というセリフを心から言える子供たちが、今、どれくらいいるのだろうか…と不安になってしまう今日この頃。

納谷六朗（園長先生）

A1★良くぞ生き延びてきたもンだ！
A2★「箱根八里の半次郎」。演歌だもン。
A3★「クレヨンしんちゃん」。わかってるでしョ。
A4★「クレヨンしんちゃん」劇場版。当然でしョ。
A5★ネコバスを取り返そうとしてぶつかるところ。いかにも園長先生だもン。

高田由美（よしなが先生）

A1★自然破壊です。（人間も含めて）ものすごく便利になったけど、進歩のかわりになくしたものの方が多かったです。そのことに気づいた世紀だったと思います。
A2★「ホテル・カリフォルニア」（イーグルス）。とくに思い出はないんですけど、この曲を聞くとせつない気持ちになります。
A3★やっぱりディズニー作品です。特に「不思議の国のアリス」。色の明るさと女の子の愛らしさで強く印象に残っています。絵本も大好きでした。
A4★「ロレンツォのオイル」。難病の子供をもつ両親が必死で特効薬を探す映画です。私も子供の頃とても体が弱かったので、泣きました。
A5★スナック「カスカビアン」での、しんちゃんの人妻ごっこのシーン。しんちゃんがものすごく色っぽくて面白いからです。

富沢美智恵（まつざか先生）

A1★私がクリスチャンになったこと。そして結婚。たくさんの恵みと祝福に感謝しています。
A2★「When you belive」。"夢は叶う　信じれば!!"という内容の歌詞です。とても希望に満ちた神様を賛美できる歌で大好きです。
A3★「プリンス・オブ・エジプト」。全てがすばらしかった!!　大スペクタクルで、映画館で見ていて鳥肌が立ちっぱなしでした。
A4★「十戒」「ベン・ハー」。神様の偉大なる力と愛が描かれているから。何度観たかしら…。
A5★是非、ご覧になってみて下さい。（ひと言では、言えなくてゴメンナサイ!!）

三石琴乃（上尾先生）

A1★「世紀」と言われても、ピンと来ない気分。恐怖の大魔王が来なくて良かった（笑）。
A2★「ユーミン」の「埠頭を渡る風」は青春時代の思い出。「B'z」にはミーハー全開でハマってしまい、最近になって何故か「ビリー・ジョエル」や「エリック・クラプトン」がお気に入り。
A3★「クレヨンしんちゃん」と「美少女戦士セーラームーン」。面白いし、それに大きな声では言えないけれどヒイキしてるから。
A4★たくさんあるけれど、「レオン」「ニューシネマパラダイス」「フィールド・オブ・ドリームス」「ステラ」などなど…。せつない物語が好きみたいです。
A5★ひろしが、自分の過去を思い出すシーン。あの日があって、今の自分があるのに、あの日の喜び、感動、感謝を忘れがちだなあと思いました。

うっほほ〜い！

出演者のみんなと、監督の原さん、それから原作者の臼井先生に20世紀について聞いてみたゾ！ふむふむ。20世紀っていろいろあるのね。

Q1. 20世紀を振り返って思うことはどんなこと？
Q2. 20世紀のお気に入りの曲はなに？
Q3. 20世紀のお気に入りのアニメは？
Q4. 20世紀のお気に入りの映画は？
Q5. この映画で気に入ってるシーンは？

真柴摩利（風間くん&シロ）

A1★20世紀は「戦争」の世紀だったなあと思います。私は戦争を知らないけれど、私が生まれてからも世界中で争いがあって…。21世紀こそ、どうか子供たちが飢えることのないように！

A2★さだまさしさんの「案山子」。上京した頃にはじめて聞いて、大泣きした曲です。ふるさとをはなれたことのある人は、絶対泣けるはず!!

A3★手塚治虫さんの「どろろ」。放送禁止用語バシバシの作品で、今は再放映はできませんが、もう一度見たい作品です。小さい頃だったのでストーリーとかはあまり覚えていませんでしたが、キョーレツなインパクトのあった作品。大きくなってから原作のマンガを読んで、ああ、そうだったんだと思いました。どろろの小さい頃のエピソードなんてたまりません…。

A4★「愛する」という題名の映画だったと思うんですけど…。ハンセン病をあつかった映画です。いわれなき差別や偏見が、多くの人の人生を狂わせてしまったんだなあと…胸が痛くなりました。映画館を出る頃には、目が腫れちゃいました。

A5★現実の未来のために、しんちゃんがボロボロになってがんばるシーン。大切な人たちや自分の未来のために必死になれるってかっこいいことだと思います。あとは、やっぱり「カスカベ防衛隊」の活躍するところでしょう!! スナックのシーンはおすすめよ♡

林玉緒（ネネちゃん）

A1★悲しい時代。戦争という争いの絶えない20世紀でした。21世紀まで続いて欲しくないけれど、今でもまだ続いているのですね。

A2★平井堅の歌です。「楽園」など。本当にトロけるような歌声だから。

A3★絶対に「クレヨンしんちゃん」です。出演しているから…という理由もありますが、でもとってもあったかい作品だと思うから！

A4★「グリーンマイル」。泣けて泣けて、人間の命について深く考えさせられました。

A5★園児たちが力を合わせてバスを運転するシーン!! みんなで力を合わせるって事は、何でも可能にするのです。

一龍斎貞友（マサオくん）

A1★未熟児で生まれたけど、今では人並み以上の立派なからだ。おいしいものいっぱい食べ!! 21世紀も!!

A2★クリスタルキングの「大都会」。ファンキーな高音にシビレた。マネをして遊んだことも想い出。

A3★やっぱ「クレヨンしんちゃん」でしょ！ しんちゃんは永遠に不滅です!! すごーく昔「タイガーマスク」の伊達直人もカッコよかった！（知ってる人、いないかな？）Endingは泣ける。

A4★「スタンド・バイ・ミー」。少年たちの心の動きがしみじみ伝わってきて、いつまでも忘れられない作品。

A5★スナック「カスカビアン」での子供たち。オトナぶりっ子の会話が絶妙!! しゃべっていても、聞いていても笑ってしまった!!! バス乗っ取りのシーンも変身！して good だと思った。

佐藤智恵（ボーちゃん）

A1★いい時代だったなぁ…。

A2★沢田研二の「勝手にしやがれ」とCharの「気絶するほど悩ましい」。…好きだったんです。というか今も大好きです。よく聞きます。

A3★とーぜん、「クレヨンしんちゃん」でしょ！ なんたって参加してるんだから♡ 21世紀もしんちゃんは不滅です！

A4★「ロミオ+ジュリエット」。ディカプリオがすごくステキでした。彼にはずいぶんつぎこみました。ポスターとかポストカード、カレンダー。今はすっかりさめました（笑）。

A5★スナック「カスカビアン」のシーンと、園児たちがみんなで幼稚園バスを動かすシーン。協力して普段ならできないことも可能にしてしまうことに感動しました。

津嘉山正種（ケン）

A1★戦争、紛争の世紀でした。

A2★「赤とんぼ」。人を思い、自然を思いの詩情があふれている。

A3★「火垂るの墓」。妹思いの兄とその兄を慕う妹の姿がたまらなく切なかった。

A4★「E.T.」。未来への夢、純な心への回帰を感じさせた。

A5★気に入っているシーンというのではありませんが、「夕焼けは人を振り返らさせる。」というケンの台詞はとても心に残っています。夕焼けを眺める心のゆとりを今、持てない時代だから、立ち止まれない時代を反省して…。

小林愛（チャコ）

A1★自分が生まれて、20数年しか知らないのに、世の中ずいぶん変わったナ、と。すごいなぁ!!

A2★aiko。今も好きだけど。いろいろな女性ボーカリストがあらわれたけど、20世紀の終わりにハマってしまったので一番キョーレツ。

A3★「耳をすませば」。フツーの日常の中の「ドキドキ」が、すごく自然に描かれていると思うので。

A4★「アマデウス」。なんか忘れられない。

A5★やっぱりしんちゃんがラストで走るところでしょう！ これを見て、しんちゃんの大人になった姿が見たいと初めて思いました。

臼井儀人（原作者）

A1★20世紀も終わったなァ…

A2★サザンオールスターズ。良いから…

A3★「オバケのQ太郎」。良いから…

A4★「ロッキー」。良いから…

A5★早朝のランニングで、わき腹かかえて苦しそうに走る所。生タマゴ飲みすぎだから…

原恵一（監督・脚本）

A1★東京オリンピック、アポロ月面着陸、大阪万博（EXPO'70）、新幹線、ベトナム戦争、レコード、ラジオ、テレビ、映画館、夏休み、家賃13,000円のアパート、くみとり式便所。モーレツでせつない。

A2★RCサクセション、井上陽水、ブルーハーツ、よしだたくろう、ビートルズ、やまがたすみこ、ギルバート・オサリバン、奥村チヨ、ピーター・ポール&マリー、サイモン&ガーファンクル。せつない。

A3★「風の谷のナウシカ」「銀河鉄道の夜」。感動。

A4★木下恵介監督、小津安二郎監督、デビッド・リーン監督、ヴェルナール・ヘルツォーク監督、アンドレイ・タルコフスキー監督、他多数の監督の作品たち。感動。

A5★現実に帰ってきたひろしに、しんのすけが「とーちゃん、オラがわかる？」と問うシーン。チャコが足踏みミシンをかけているカット。万博会場。走るしんのすけ。キジバト。理由は見た人にお任せします。伝わらなかったらごめんなさい。

映画クレヨンしんちゃん「嵐を呼ぶ モーレツ！ オトナ帝国の逆襲」主題歌
元気でいてね
作詩：白峰美津子 作曲・編曲：岩崎元是 歌：こばやしさちこ
あのね おかあさん 覚えてる？
運動会の おべんとう
早起きして 作ってくれた
あのたまごやき おいしかったな……また食べたいな
それでね おかあさん 初めての
学芸会は カエル役
間違えちゃって 泣きそうだった
でもおかあさん 見つけたとたん……ほっとしたんだ
今だから 今だから 言える『ありがとう』
いつまでも いつまでも 元気でいてね
わたしがおかあさんになっても ずっと元気でいてね
あのね おとうさん 覚えてる？
一年生の 参観日
早起きして 来てくれたよね
きっとお仕事 たいへんなのに……うれしかったよ
それでね おとうさん ほんとはね
しかってばかりで こわかった
だけど自転車 こわれた時は
何も言わずに なおしてくれた……かっこ良かった
大きくて あたたかい 手のひらだったなぁ
いつだって いつだって 見ていてくれた
どこかでくじけそうになったら 昔のようにしかって
今だから 今だから 言える『ありがとう』
いつまでも いつまでも 元気でいてね
遠くはなればなれになっても ずっと元気でいてね
JASRAC 出0104220-101

声の出演

しんのすけ……矢島晶子
みさえ……ならはしみき
ひろし……藤原啓治
ひまわり……こおろぎさとみ
風間くん……真柴摩利
ネネちゃん……林　玉緒
マサオくん……一龍斎貞友
ボーちゃん……佐藤智恵
チャコ……小林　愛
園長先生……納谷六朗
ひろし（子供時代）……三田ゆう子
銀之助……松尾銀三
つる……北川智繪
TVの声……関根　勤
小堺一機
副園長……滝沢ロコ
よしなが先生……高田由美
まつざか先生……富沢美智恵
上尾先生……三石琴乃
本屋店長……京田尚子
中村……稀代桜子
隣のおばさん……鈴木れい子
風間ママ……玉川紗己子
ネネママ……萩森侚子
マサオママ……大塚智子
団羅座也……茶風林
ヒーローSUN……神奈延年
怪獣役者……江川央生
酒屋……岡野浩介
肉屋……大西健晴
ソバ屋……鈴村健一
魚屋……児島ちはる
アナウンサー……池本小百合
受付……宇和川恵美
案内係……工藤香子
隊員……伊藤健太郎
ケン……津嘉山正種

スタッフ

原作……臼井儀人（らくだ社）
監督・脚本……原　恵一
演出……水島　努
作画監督……原　勝徳
堤のりゆき
間々田益男
キャラクターデザイン……末吉裕一郎
原　勝徳
撮影監督……梅田俊之
美術監督……古賀　徹
清水としゆき
録音監督……大熊　昭
編集……岡安　肇
ねんどアニメ……石田卓也
効果……松田昭彦
原田　敦
（フィズ・サウンド・クリエイション）
音楽……荒川敏行
浜口史郎
チーフプロデューサー……茂木仁史
太田賢司
生田英隆
プロデューサー……山川順市
和田やすし
福吉　健（テレビ朝日）
制作デスク……高橋　渉
魁生　聡
制作……シンエイ動画
テレビ朝日
ASATSU-DK
配給……東宝

発行日：2001年4月21日
発行者：平沼久典
発行所：東宝（株）出版・商品事業室　東京都千代田区有楽町1-2-1
編集：（株）スタジオ・ジャンプ　東京都港区南青山5-6-26
取材・テキスト構成：吉野ちづる
印刷所：成旺印刷（株）　東京都港区芝2-1-28
定価：500円（税込）
http://www.toho.co.jp

絶賛
発売中!!
映画クレヨンしんちゃん
嵐を呼ぶ モーレツ!オトナ帝国の逆襲
CDS:CODA-1961 定価¥1,120
主題歌
元気でいてね
作詩・白峰美津子／作曲・岩崎元是／編曲・岩崎元是
こばやしさちこ
c/w オラタチはにんきもの
さっちゃんしんちゃん
COLUMBIA
©臼井儀人／双葉社・シンエイ・テレビ朝日 2001